科目名	教育学概論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>現代的な教育の諸課題を多角的な視点で考察するために、教育の基本的概念を身につける。到達目標は以下の2点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の歴史の変遷と思想について説明することができる。 ・家族、子どもの歴史の変遷と思想について説明することができる。
授業概要
<p>遠隔授業 教育学の領域から、教育制度、教育方法、学校文化、家族に関連して、いくつかのトピックをとりあげ、その歴史や思想を学ぶことによって、教育の基本的概念や理念についての理解を深めることを目指す。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後ミニレポートを作成してもらいます。 <p>その内容が平常点に加算されます(提出しただけでは、点数になりませんので注意してください)。</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点：毎回授業終了後に提出してもらおう小レポートの点数 授業態度等	45
期末レポート	55

教科書			
教科書 1	指定しない。適宜、授業内でプリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育学とは何か キーワード：教育制度、教育方法、教育史、教育思想
2	公教育の歴史と思想①—近代教育制度の成立 キーワード：公教育、天皇主権、教育勅語、御真影、国定教科書
3	公教育の歴史と思想②—戦後教育改革 キーワード：国民主権、教育を受ける権利、学習指導要領、検定教科書
4	教育評価の歴史と思想①—教育評価の変遷 キーワード：教育評価、受験重視教育、一教科一評定主義、観点別評価
5	教育評価の歴史と思想②—新しい教育評価 キーワード：新しい学力観、ポートフォリオ評価、ルーブリック、自己評価
6	特別支援教育の歴史と思想①—整備の遅れた障害のある子どもの教育 キーワード：障害のある子どもの教育を受ける権利、特殊教育制度、就学義務の猶予・免除、分離教育、統合教育
7	特別支援教育の歴史と思想②—特殊教育から特別支援教育へ キーワード：ノーマライゼーションの思想、インクルーシブ教育、特別支援教育制度
8	特別支援教育の歴史と思想③—障害のある生徒への性教育 キーワード：障害のある人の性、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、性教育
9	子どもと家族の歴史と思想①—家庭のしつけの今昔 キーワード：近代以前の家族、働く子ども、近代家族、教育される子ども
10	子どもと家族の歴史と思想②—子どもの誕生 キーワード：子ども観、アリエス、小さな大人、大人と区別されるべき存在としての子ども
11	子どもと家族の歴史と思想③—児童中心主義の教育思想 キーワード：「子どもから」の教育、ルソー、デューイ、大正自由教育
12	子どもと家族の歴史の思想④—児童虐待 キーワード：家族の多様化、児童虐待防止法、児童相談所対応件数、愛着形成
13	学校文化の歴史と思想①—学校建築の歴史の変遷 キーワード：学校文化の生成、擬洋風建築、兵舎モデル、オープンスクールの思想
14	学校文化の歴史と思想②—運動場と金次郎像のある風景 キーワード：体育と徳育、遠足運動会、二宮金次郎（尊徳）、臣民モデル
15	学校文化の歴史と思想③—制服の教育的意味づけ キーワード：軍服モデル、エリート主義、管理主義、ファッションとしての制服

科目名	教育学概論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>現代的な教育の諸課題を多角的な視点で考察するために、教育の基本的概念を身につける。到達目標は以下の2点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の歴史の変遷と思想について説明することができる。 ・家族、子どもの歴史の変遷と思想について説明することができる。
授業概要
<p>遠隔授業 教育学の領域から、教育制度、教育方法、学校文化、家族に関連して、いくつかのトピックをとりあげ、その歴史や思想を学ぶことによって、教育の基本的概念や理念についての理解を深めることを目指す。</p>
<p>準備学修(予習・復習)・受講上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後ミニレポートを作成してもらいます。その内容が平常点に加算されます(提出しただけでは、点数になりませんので注意してください)。

成績評価方法・基準	
種別	割合(%)
平常点：毎回授業終了後に提出してもらう小レポートの点数 授業態度等	45
期末レポート	55

教科書			
教科書 1	指定しない。適宜、授業内でプリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育学とは何か キーワード：教育制度、教育方法、教育史、教育思想
2	公教育の歴史と思想①—近代教育制度の成立 キーワード：公教育、天皇主権、教育勅語、御真影、国定教科書
3	公教育の歴史と思想②—戦後教育改革 キーワード：国民主権、教育を受ける権利、学習指導要領、検定教科書
4	教育評価の歴史と思想①—教育評価の変遷 キーワード：教育評価、受験重視教育、一教科一評定主義、観点別評価
5	教育評価の歴史と思想②—新しい教育評価 キーワード：新しい学力観、ポートフォリオ評価、ルーブリック、自己評価
6	特別支援教育の歴史と思想①—整備の遅れた障害のある子どもの教育 キーワード：障害のある子どもの教育を受ける権利、特殊教育制度、就学義務の猶予・免除、分離教育、統合教育
7	特別支援教育の歴史と思想②—特殊教育から特別支援教育へ キーワード：ノーマライゼーションの思想、インクルーシブ教育、特別支援教育制度
8	特別支援教育の歴史と思想③—障害のある生徒への性教育 キーワード：障害のある人の性、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、性教育
9	子どもと家族の歴史と思想①—家庭のしつけの今昔 キーワード：近代以前の家族、働く子ども、近代家族、教育される子ども
10	子どもと家族の歴史と思想②—子どもの誕生 キーワード：子ども観、アリエス、小さな大人、大人と区別されるべき存在としての子ども
11	子どもと家族の歴史と思想③—児童中心主義の教育思想 キーワード：「子どもから」の教育、ルソー、デューイ、大正自由教育
12	子どもと家族の歴史の思想④—児童虐待 キーワード：家族の多様化、児童虐待防止法、児童相談所対応件数、愛着形成
13	学校文化の歴史と思想①—学校建築の歴史の変遷 キーワード：学校文化の生成、擬洋風建築、兵舎モデル、オープンスクールの思想
14	学校文化の歴史と思想②—運動場と金次郎像のある風景 キーワード：体育と徳育、遠足運動会、二宮金次郎（尊徳）、臣民モデル
15	学校文化の歴史と思想③—制服の教育的意味づけ キーワード：軍服モデル、エリート主義、管理主義、ファッションとしての制服

科目名	教育学概論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>現代的な教育の諸課題を多角的な視点で考察するために、教育の基本的概念を身につける。到達目標は以下の2点。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育の歴史の変遷と思想について説明することができる。 ・家族、子どもの歴史の変遷と思想について説明することができる。
授業概要
<p>対面授業 教育学の領域から、教育制度、教育方法、学校文化、家族に関連して、いくつかのトピックをとりあげ、その歴史や思想を学ぶことによって、教育の基本的概念や理念についての理解を深めることを目指す。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後ミニレポートを作成してもらいます。 <p>その内容が平常点に加算されます(提出しただけでは、点数になりませんので注意してください)。</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点：毎回授業終了後に提出してもらった小レポートの点数 授業態度等	45
期末レポート	55

教科書			
教科書 1	指定しない。適宜、授業内でプリントを配布する		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育学とは何か キーワード：教育制度、教育方法、教育史、教育思想
2	公教育の歴史と思想①—近代教育制度の成立 キーワード：公教育、天皇主権、教育勅語、御真影、国定教科書
3	公教育の歴史と思想②—戦後教育改革 キーワード：国民主権、教育を受ける権利、学習指導要領、検定教科書
4	教育評価の歴史と思想①—教育評価の変遷 キーワード：教育評価、受験重視教育、一教科一評定主義、観点別評価
5	教育評価の歴史と思想②—新しい教育評価 キーワード：新しい学力観、ポートフォリオ評価、ルーブリック、自己評価
6	特別支援教育の歴史と思想①—整備の遅れた障害のある子どもの教育 キーワード：障害のある子どもの教育を受ける権利、特殊教育制度、就学義務の猶予・免除、分離教育、統合教育
7	特別支援教育の歴史と思想②—特殊教育から特別支援教育へ キーワード：ノーマライゼーションの思想、インクルーシブ教育、特別支援教育制度
8	特別支援教育の歴史と思想③—障害のある生徒への性教育 キーワード：障害のある人の性、リプロダクティブ・ヘルス・ライツ、性教育
9	子どもと家族の歴史と思想①—家庭のしつけの今昔 キーワード：近代以前の家族、働く子ども、近代家族、教育される子ども
10	子どもと家族の歴史と思想②—子どもの誕生 キーワード：子ども観、アリエス、小さな大人、大人と区別されるべき存在としての子ども
11	子どもと家族の歴史と思想③—児童中心主義の教育思想 キーワード：「子どもから」の教育、ルソー、デューイ、大正自由教育
12	子どもと家族の歴史の思想④—児童虐待 キーワード：家族の多様化、児童虐待防止法、児童相談所対応件数、愛着形成
13	学校文化の歴史と思想①—学校建築の歴史の変遷 キーワード：学校文化の生成、擬洋風建築、兵舎モデル、オープンスクールの思想
14	学校文化の歴史と思想②—運動場と金次郎像のある風景 キーワード：体育と徳育、遠足運動会、二宮金次郎（尊徳）、臣民モデル
15	学校文化の歴史と思想③—制服の教育的意味づけ キーワード：軍服モデル、エリート主義、管理主義、ファッションとしての制服

科目名	教育課程総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	吉田 茂孝				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
<p>本授業のテーマは、学習指導要領と教育課程の編成原理と教育課程編成・マネジメントについて学ぶということにある。よって、本授業の到達目標は次のとおりである。(1) 学習指導要領についての基本的な知識・理解を身につける、(2) 教育課程の編成原理について理解し、それぞれを関連付けて自ら教育課程編成について考えることができる、(3) 教育課程編成の方法やマネジメントの方法について理解する。</p>
授業概要
<p>対面授業 本授業では主として、①学習指導要領の意義とその特徴に関する基本的な理解、②教育課程の編成原理のそれぞれの特徴、③それらに関する歴史的展開をふまえた今日の編成原理に関する考え方について、理解することをねらいとする。そのために、学習指導要領およびその解説、教育課程の編成原理に関する資料、カリキュラム・マネジメントに関する資料を用いて、講義形式と演習形式の両方を取り入れた学習を行う。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<p>授業の最初に講義のテーマを予告するので、それに関する予習をしておくこと。また、履修する学生には、前時の復習が求められる。配布したプリントなどを熟読しておくこと。</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
毎回の授業での小レポート・レポート	45
テスト	55

教科書			
教科書 1	中学校学習指導要領 (平成29年告示)		
出版社名		著者名	
教科書 2	高等学校学習指導要領 (平成30年告示)		
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	『よくわかる教育課程 第2版』		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	田中耕治編
参考書名 2	『よくわかる教育評価 第2版』		
出版社名	ミネルヴァ書房	著者名	田中耕治編
参考書名 3	岩波講座 教育変革への展望 5 学びとカリキュラム		
出版社名	岩波書店	著者名	秋田喜代美編
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育課程と学習指導要領に関する基本的理解
2	学習指導要領の特徴
3	教育課程（カリキュラム）の展開（1）-意図したカリキュラム-
4	教育課程（カリキュラム）の展開（2）-実施/達成したカリキュラム-
5	中間まとめ-教育課程と学習指導要領の関連-
6	教育課程の変遷（1）-経験主義-
7	教育課程の変遷（2）-系統主義-
8	教育課程の変遷（3）-新しい力と学力低下論争-
9	教育課程の変遷（4）-コンピテンシーの育成-
10	中間まとめ-教育課程編成の特徴-
11	教育課程と学力形成-学びからの逃走-
12	教育課程と学力形成-学力低下と学びの質-
13	教育課程と学力形成-PISAとキー・コンピテンシー
14	教育評価の目的と方法
15	全体のまとめ-教育課程編成の意義と課題-

科目名	教育課程総論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期～後期	形態	講義		
教員名	北川 剛司				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
<p>本授業のテーマは、学習指導要領と教育課程の編成原理と教育課程編成・マネジメントについて学ぶということにある。よって、本授業の到達目標は次のとおりである。(1) 学習指導要領についての基本的な知識・理解を身につける、(2) 教育課程の編成原理について理解し、それぞれを関連付けて自ら教育課程編成について考えることができる、(3) 教育課程編成の方法やマネジメントの方法について理解する。</p>
授業概要
<p>対面授業 本授業では主として、①学習指導要領の意義とその特徴に関する基本的な理解、②教育課程の編成原理のそれぞれの特徴、③それらに関する歴史的展開をふまえた今日の編成原理に関する考え方について、理解することをねらいとする。そのために、学習指導要領およびその解説、教育課程の編成原理に関する資料、カリキュラム・マネジメントに関する資料を用いて、講義形式と演習形式の両方を取り入れた学習を行う。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<p>授業の最初に講義のテーマを予告するので、それに関する予習をしておくこと。また、履修する学生には、前時の復習が求められる。配布したプリントなどを熟読しておくこと。</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
毎回の授業での小レポート・レポート	45
テスト	55

教科書			
教科書 1	中学校学習指導要領総則編 (平成29年告示)		
出版社名		著者名	
教科書 2	高等学校学習指導要領総則編 (平成30年告示)		
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	『よくわかる教育課程 第2版』		
出版社名	ミネルヴァ書房、2018年	著者名	田中耕治編
参考書名 2	『よくわかる教育評価 第2版』		
出版社名	ミネルヴァ書房、2010年	著者名	田中耕治編
参考書名 3	『岩波講座 教育変革への展望5 学びとカリキュラム』		
出版社名	岩波書店、2017年	著者名	秋田喜代美編
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育課程と学習指導要領に関する基本的理解
2	新学習指導要領の特徴
3	教育課程（カリキュラム）の展開（1）-意図したカリキュラム-
4	教育課程（カリキュラム）の展開（2）-実施/達成したカリキュラム-
5	中間まとめ-教育課程と学習指導要領の関連-
6	教育課程の変遷（1）-経験主義-
7	教育課程の変遷（2）-系統主義-
8	教育課程の変遷（3）-新しい力と学力低下論争-
9	教育課程の変遷（4）-コンピテンシーの育成-
10	中間まとめ-教育課程編成の特徴-
11	教育課程と学力形成-学びからの逃走-
12	教育課程と学力形成-学力低下と学びの質-
13	教育課程と学力形成-PISAとキー・コンピテンシー-
14	教育評価の目的と方法
15	全体のまとめ-教育課程編成の意義と課題-

科目名	教育実習 I	年次	4	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	武村 泰宏				
クラス名					

授業目的と到達目標
高等学校の情報科教員としての教育実践のスキルを修得する。具体的には、高等学校普通教科および専門教科「情報」の教育目標、内容、指導方法に関する教材研究や授業設計、授業展開、学習評価、問題解決に関するスキルを養成する。 到達目標：高等学校での実際の授業における実践力を修得する。
授業概要
対面授業 教育現場における教科「情報」の授業実践といった立場から、「情報科」の学習指導要領に基づいて、情報科教育で要求される知識、技能の実践的な教授方法がどのようなものであるかを学習する。 また、本教科の性格上、教育実習の内容や指導方法についての講義に加え、ネットワーク、プログラミング、ドローンに関する技能も、適宜、組入れて授業を進める。
受講上の注意
事前知識の整理および段階的着実な学習が重要である。 また、情報科教員として高等学校に採用された本学卒業者の活動状況も紹介するので参考にしてほしい。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業課題の提出	50%
模擬授業の成果	50%

教科書情報			
教科書 1	高等学校学習指導要領解説 情報編		
出版社名	開隆堂出版	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	アートを生み出すプログラミング		
出版社名	晃洋書房	著者名	武村泰宏
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項

教員実務経験

授業計画

第1-3回 【対面】

- (1) 全体のガイダンス（教育実習の計画、心得等）
- (2) 教科「情報」のまとめ
- (3) 「総合的な学習の時間」との協調

第4-5回 【対面】

- (4) 実習授業の計画①（教材の側面から）
- (5) 実習授業の計画②（授業計画の側面から）

第6-7回 【対面】

- (6) 実習授業の教材作成①（情報科学の知識領域）
- (7) 実習授業の教材作成②（情報技術の技能分野）

第8-9回 【対面】

- (8) 実習授業の教材作成③（基礎的プログラミング領域）
- (9) 実習授業の教材作成④（応用的プログラミング領域）

第10-11回 【対面】

- (10) 知識領域の模擬授業実践
- (11) 技能分野の模擬授業実践

第12-13回 【対面】

- (12) プログラミングの模擬授業実践
- (13) 実習校での研究授業に向けての準備

第14-15回 【対面】

- (14) 教育実習の報告
- (15) 講評と今後に向けて

科目名	教育実習 I	年次	4	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	龍本 那津子				
クラス名	国語科免許				

授業目的と到達目標
<p>本授業は学校現場での教育実習を通して、大学で教職や教科に関して学んだことを確認し、より深め、発展させて教員としての実践力を総合的に高めることを目的とする。</p> <p>〔到達目標〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義を理解する。 ・教育実習に関する基本的な知識を習得する。 ・学習指導案作成の仕方を習得する。 ・学習指導案に基づき模擬授業を実施できる。 ・教育実習に臨む意欲を高め、教員としてふさわしい態度を身につける。
授業概要
<p>4月22日(木)より当面の間遠隔授業で行います</p> <p>事前指導においては、次の2点を行う。</p> <p>1 教育実習の意義と教員が果たす役割、学習指導、生徒指導、学級経営の方法などについて、講義やディスカッションを通して学ぶ。</p> <p>2 学習指導案の作成や模擬授業を通して実践感覚を養い、自己の課題を明確にする。</p> <p>事後指導においては、全体での振り返り、および個人面談による指導助言を行う。</p>
受講上の注意
<ul style="list-style-type: none"> ・真摯な態度で授業に臨むこと。 ・実習校、大学との事務的な処理を迅速・確実に行うこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
実習校の評価	20
授業への積極的参加度	40
発表・課題・レポート	40

教科書情報			
教科書 1	新編 教育実習の常識		
出版社名	蒼丘書林	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			

出版社名	著者名
------	-----

参考URL
特記事項
教員実務経験
指導者の実務経験：高等学校国語科教諭

授業計画
<ol style="list-style-type: none">1 教育実習の意義について2 学校教育を支えるもの3 生徒理解-現状と課題4 生徒理解-指導の実際5 学級経営の意義とその具体6 教師の資質と役割7 今日的教育課題と教育改革8 学力観とその変遷-学力調査とその現状9 学習指導の進め方10 指導案の作成と授業の実際-模擬授業の実施（第1回）11 指導案の作成と授業の実際-模擬授業の実施（第2回）12 指導案の作成と授業の実際-模擬授業の実施（第3回）13 学習指導における教師のリーダーシップ14 教育実習に向けて15 まとめと評価

科目名	教育実習 I	年次	4	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子				
クラス名	音楽科免許				

授業目的と到達目標
<ul style="list-style-type: none"> ・学んだ教育理念の総仕上げとして教育現場において実践的に学ぶ。 教育現場での教育活動を通して教員に求められる資質能力を理解する ・実習校での実践を通して教科指導、学級指導、生活指導など指導力向上を目指すとともに教員の仕事のやりがいを体得する
授業概要
[対面授業] <ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領を理解し、学習指導案を適切に作成することができる。 ・音楽科教員として、魅力ある楽しい授業作りができる。 ・指導案作成や模擬授業を通して教育実習に臨む力を育成する。
受講上の注意
<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義と心構えを理解し、真摯な態度で受講する。 ・音楽科教員として専門性を高める意識を持つ。 ・生徒にとって分かりやすい、楽しい授業作りの視点を持つ。 ・あいさつ、コミュニケーションを大切にする。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
学習指導案	30
模擬授業	30
教育実習	20
ワークシート・レポート等	20

教科書情報			
教科書 1	中学校学習指導要領解説－音楽編		
出版社名		著者名	文部科学省
教科書 2	中学生の音楽 1/2・3上下 中学生の器楽		
出版社名		著者名	教育芸術社
教科書 3	中学音楽 音楽のおくりもの1/2・3上下 中学器楽		
出版社名		著者名	教育出版

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
中学校校長

授業計画
<ol style="list-style-type: none">1、教育実習の心得、学校現場の教育活動全般について学ぶ。2、「教育実習Ⅰ」の授業方針の理解。教育実習の意義および基本方針の理解。実習校との事務手続き、打合せについての確認。3、学習指導要領解説音楽編を理解し、音楽科の「意義」と生徒に育むべき「資質能力」を学ぶ。4、学習指導計画（指導事項・題材設定・共通事項・授業展開）の理解。5、表現（歌唱・器楽・創作）、鑑賞における授業構成について学ぶ。6、音楽科学習指導案の具体例を参考にし、学習指導案を作成する（1）7、音楽科学習指導案の具体例を参考にし、学習指導案を作成する（2）8、音楽科学習指導案の具体例を参考にし、学習指導案を作成する（3）9、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施（1）10、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施（2）11、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施（3）12、「主体的・対話的・深い学び」の視点での模擬授業の実施（4）13、指導と評価について学ぶ（目標に準拠した評価・観点別評価）14、学校の日、教育活動全般について学ぶ（教科指導・学級活動・生活指導・道徳）教員の服務規律および職務上の義務について学ぶ。15、実習記録の記載法についての理解。

科目名	教育実習 I	年次	4	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	美術科・工芸科免許				

授業目的と到達目標
世界のグローバル化により既存の価値観が揺り動かされ、教育も変革の波にさらされている。現代の教育改革の時代に教員をめざして学んできた教職課程履修の仕上げとして一般教養、教職専門、各教科のすべての内容をより深く理解するとともに、実習校での実践を通じて教科指導、生徒指導、学級指導などの指導力の向上を図る。また、教師としての熱い情熱の育成と、質の高い授業が創造できる人間力の獲得をめざす。
授業概要
対面授業で行います。 実習校での生徒や教職員との人間関係を円滑に構築するため、挨拶や声掛けなどのコミュニケーション力の向上と社会性の育成に努める。教員に求められる指導力を学び、教職に対する意欲の向上と目標の具体化を図る。美術科学習指導案に基づき、具体的な授業が展開できるよう、生徒への話し方、板書の仕方、参考作品の提示など生徒を引き付ける要点について学ぶ。
受講上の注意
教育実習で学ぶという意義と心構えをよく理解し、真摯な態度で参加すること。授業の目標を明確にし、生徒がわかりやすい授業をどのように創造するかを考え授業計画を立案する。挨拶の大切さを理解し、生徒に積極的に声掛けを行うなどコミュニケーション力を高めるよう努力する。実習期間中での活動はすべて実習ノートに記録し、一日の学校生活を振り返り、成果と課題を整理する習慣を身につける。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
美術科学習指導案	20%
レポート1.2.3.4	20%
模擬授業評価点	20%
美術教育鑑賞テスト	20%
教育実習の成績	20%

教科書情報			
教科書 1	中学校学習指導要領解説美術編		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省
教科書 2	高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編		
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	美術資料		
出版社名	株式会社秀学社	著者名	京都市立大学美術教育研究会
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	

参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL
特記事項
教員実務経験
中学校教諭 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 教育委員会教務部教職員課管理主事 中学校校長

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習生の心得を学ぶ。中学校・高等学校の教育活動の現状について理解する。 2. 教育実習Ⅰのシラバスと授業方針を知る。教育実習の意義と基本的態度を理解する。 3. 実習校との打ち合わせと教育指導の計画について理解する。学習指導要領解説美術編の教科の目標を理解し、学習指導案の作成の基礎・基本を学ぶ。 4. 中学校・高等学校の学習指導要領、1.総説、2.美術科の目標及び内容、3.各学年の目標及び内容、4.指導計画の作成と内容の取扱いの要点を理解する。 5. 教育実習校で求められる美術科学習指導案を作成する。「美術科学習指導案」を作成し、提出期限厳守で提出する。 6. 美術科学習指導案&資料集をもとに模擬授業1を行う。表現・鑑賞の領域、視聴覚機器の活用等に分けて円滑に行う。 7. 模擬授業2を行う。挨拶や板書、参考作品の提示、発問の仕方、道具の使い方等の授業の指導ポイントを理解する。 8. 模擬授業3を行う。片付けの指示、制作態度の評価、自己評価カードの作成と活用に留意する。 9. 模擬授業4を行う。生徒の制作意欲を喚起する、励ましの言葉、声掛けの仕方の工夫。 10. 実習生の一日について(学級活動、研究授業、生徒指導、特別活動、道徳指導、部活動指導など)実習ノートの記入について理解する。 11. 話し方挨拶練習1 ⇒ 教職員との関係づくり、研究授業反省会での挨拶と話し方を学ぶ。 12. 話し方挨拶練習2 ⇒ 生徒交流の仕方、全校集会、学年集会、所属学級での挨拶を通じて自分の考えを整理する。 13. 学校教育法、地方公務員法等、教員の服務規律と職務上の義務について学ぶ。 14. 教育実習の振り返りと成果の検証 教育実習の成果と課題のまとめ 班別の話し合いを通じて教育実習を総括する。 15. 教育実習の総括から、求められる教師像、育てる生徒像とこれからの美術教育について考える。

科目名	教育実習 I	年次	4	単位数	1
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	松山 明				
クラス名	美術科・工芸科免許				

授業目的と到達目標
世界のグローバル化により既存の価値観が揺り動かされ、教育も変革の波にさらされている。現代の教育改革の時代に教員をめざして学んできた教職課程履修の仕上げとして一般教養、教職専門、各教科のすべての内容をより深く理解するとともに、実習校での実践を通じて教科指導、生徒指導、学級指導などの指導力の向上を図る。また、教師としての熱い情熱の育成と、質の高い授業が創造できる人間力の獲得をめざす。
授業概要
対面授業で行います。 実習校での生徒や教職員との人間関係を円滑に構築するため、挨拶や声掛けなどのコミュニケーション力の向上と社会性の育成に努める。教員に求められる指導力を学び、教職に対する意欲の向上と目標の具体化を図る。美術科学習指導案に基づき、具体的な授業が展開できるよう、生徒への話し方、板書の仕方、参考作品の提示など生徒を引き付ける要点について学ぶ。
受講上の注意
教育実習で学ぶという意義と心構えをよく理解し、真摯な態度で参加すること。授業の目標を明確にし、生徒がわかりやすい授業をどのように創造するかを考え授業計画を立案する。挨拶の大切さを理解し、生徒に積極的に声掛けを行うなどコミュニケーション力を高めるよう努力する。実習期間中での活動はすべて実習ノートに記録し、一日の学校生活を振り返り、成果と課題を整理する習慣を身につける。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
美術科学習指導案	20%
レポート1.2.3.4	20%
模擬授業評価点	20%
美術教育鑑賞テスト	20%
教育実習の成績	20%

教科書情報			
教科書 1	高等学校学習指導要領解説芸術編・美術編		
出版社名	教育出版株式会社	著者名	文部科学省
教科書 2	中学校学習指導要領解説美術編		
出版社名	日本文教出版株式会社	著者名	文部科学省
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	美術資料 (大阪府版)		
出版社名	株式会社秀学社	著者名	京都市立芸術大学美術教育研究会
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	

参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL
特記事項
教員実務経験
中学校教諭 教育委会指導部中学校教育課指導主事 教育委員会教務部教職員課管理主事 中学校校長

授業計画
<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習生の心得を学ぶ。中学校・高等学校の教育活動の現状について理解する。 2. 教育実習Ⅰのシラバスと授業方針を知る。教育実習の意義と基本的態度を理解する。 3. 実習校との打ち合わせと教育指導の計画について理解する。学習指導要領解説美術編の教科の目標を理解し、学習指導案の作成の基礎・基本を学ぶ。 4. 中学校・高等学校の学習指導要領、1.総説、2.美術科の目標及び内容、3.各学年の目標及び内容、4.指導計画の作成と内容の取扱いの要点を理解する。 5. 教育実習校で求められる美術科学習指導案を作成する。「美術科学習指導案」を作成し、提出期限厳守で提出する。 6. 美術科学習指導案&資料集をもとに模擬授業1を行う。表現・鑑賞の領域、視聴覚機器の活用等に分けて円滑に行う。 7. 模擬授業2を行う。挨拶や板書、参考作品の提示、発問の仕方、道具の使い方等の授業の指導ポイントを理解する。 8. 模擬授業3を行う。片付けの指示、制作態度の評価、自己評価カードの作成と活用に留意する。 9. 模擬授業4を行う。生徒の制作意欲を喚起する。励ましの言葉、声掛けの仕方の工夫。 10. 実習生の一日について(学級活動、研究授業、生徒指導、特別活動、道徳指導、部活動指導など)実習ノートの記入について理解する。 11. 話し方挨拶練習1 ⇒ 教職員との関係づくり、研究授業反省会での挨拶と話し方を学ぶ。 12. 話し方挨拶練習2 ⇒ 生徒交流の仕方、全校集会、学年集会、所属学級での挨拶を通じて自分の考えを整理する。 13. 学校教育法、地方公務員法等 教員の服務規律と職務上の義務について学ぶ。 14. 教育実習の振り返りと成果の検証 教育実習の成果と課題のまとめ 班別の話し合いを通じて教育実習を総括する。 15. 教育実習の総括から、求められる教師像、育てる生徒像とこれからの美術教育について考える。

科目名	教育社会学	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>社会に氾濫する、様々な教育言説に惑わされることなく、現代の学校教育の課題に対して客観的に向き合うために、教育という営みを社会事象の一つとして認識し、その構造、機能や意味を考察する。到達目標は以下の通り。</p> <p>・教育格差、ジェンダー、子ども・若者「問題」、教育改革、これら授業でとりあげた教育事象について社会とのかかわりから説明することができる</p>
授業概要
<p>対面授業</p> <p>「教師聖職論」に象徴されるように、伝統的に教育は聖なる営みと見なされてきた。人々は聖なる教育に対し大きな期待を抱くがゆえに、そこにあてはまらない教育事象を「問題」視する。本講義では、複数の教育事象を取り上げ、教育を聖なるものとしてではなく、社会事象の一つとしてとらえ、そのありのままを観察し、分析する。そのうえで、あらためて教育の何が「問題」で何が「問題」でないのかを考察していきたい。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<p>・毎授業終了後、小レポートを作成してもらおう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点：毎回授業終了後に提出してもらおう小レポートの点数 等	45
期末レポート	55

教科書			
教科書 1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			

出版社名		著者名	
------	--	-----	--

参考URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育社会学とは何か キーワード：教育から社会へ、社会から教育へ、教育の中の社会
2	教育格差と社会—現代社会における「格差」の実態 キーワード：格差社会論、教育の格差論、学力調査、家庭環境と学力の関連性
3	教育格差と社会—学力格差・意欲格差・希望格差 キーワード：保護者の教育願望、貧困家庭、学習阻害要因、機会の不平等
4	教育格差と社会—格差の縮小を目指して キーワード：ヘッド・スタート計画、教育アクション地域、子どもの貧困対策の推進に関する法律、力のある学校
5	ジェンダーと社会—男女別のカリキュラム キーワード：ジェンダー、性別役割分業観、中学校、高等女学校、家庭科
6	ジェンダーと社会—かくれたカリキュラム キーワード：男女を分けない教育、かくれたカリキュラム、ジェンダー・バイアス、進路選択
7	ジェンダーと社会—ジェンダーに敏感な教育 キーワード：「男子問題」、性的マイノリティ、ジェンダーに敏感な教育、男女平等教育
8	子ども・若者「問題」と社会—家庭の教育力は低下したのか キーワード：地域社会における産育、家庭の教育戦略、親役割の拡大、家族の多様化
9	子ども・若者「問題」と社会—青少年凶悪化言説を問い直す キーワード：少年犯罪の実態、若者への社会的関心の高まり、神戸連続児童殺傷事件、少年犯罪報道の問題点
10	子ども・若者「問題」と社会—若者の社会化と逸脱 キーワード：社会化、エージェント、反社会的行動、非社会的行動、ボンド理論
11	子ども・若者「問題」と社会—若者文化と学校 キーワード：絶対的価値規範の衰退、コミュニケーション能力、スクールカースト、友人関係
12	教育改革と社会—臨時教育審議会答申が提起するもの キーワード：教育の公共性、画一主義教育への批判、臨時教育審議会、個性重視の原則
13	教育改革と社会—新自由主義に基づく教育改革 キーワード：新自由主義、公的サービスの民営化、公教育自由化論、学校の個性化
14	教育改革と社会—社会に開かれた学校を目指して キーワード：学校の個性化、地域の教育力、学校運営協議会、学校・地域の連携と協働
15	教育改革と社会—子どもの安全・安心を保障するために キーワード：安全確保、危機管理、学校保健安全法、学校事故対応に関する指針

科目名	教育社会学	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>社会に氾濫する、様々な教育言説に惑わされることなく、現代の学校教育の課題に対して客観的に向き合うために、教育という営みを社会事象の一つとして認識し、その構造、機能や意味を考察する。到達目標は以下の通り。</p> <p>・教育格差、ジェンダー、子ども・若者「問題」、教育改革、これら授業でとりあげた教育事象について社会とのかかわりから説明することができる</p>	
授業概要	
<p>対面授業</p> <p>「教師聖職論」に象徴されるように、伝統的に教育は聖なる営みと見なされてきた。人々は聖なる教育に対し大きな期待を抱くがゆえに、そこにあてはまらない教育事象を「問題」視する。本講義では、複数の教育事象を取り上げ、教育を聖なるものとしてではなく、社会事象の一つとしてとらえ、そのありのままを観察し、分析する。そのうえで、あらためて教育の何が「問題」で何が「問題」でないのかを考察していきたい。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>・毎授業終了後、小レポートを作成してもらおう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点：毎回授業終了後に提出してもらおう小レポートの点数 等	45
期末レポート	55

教科書			
教科書 1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			

出版社名		著者名	
------	--	-----	--

参考URL	
特記事項	
教員実務経験	

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育社会学とは何か キーワード：教育から社会へ、社会から教育へ、教育の中の社会
2	教育格差と社会—現代社会における「格差」の実態 キーワード：格差社会論、教育の格差論、学力調査、家庭環境と学力の関連性
3	教育格差と社会—学力格差・意欲格差・希望格差 キーワード：保護者の教育願望、貧困家庭、学習阻害要因、機会の不平等
4	教育格差と社会—格差の縮小を目指して キーワード：ヘッド・スタート計画、教育アクション地域、子どもの貧困対策の推進に関する法律、力のある学校
5	ジェンダーと社会—男女別のカリキュラム キーワード：ジェンダー、性別役割分業観、中学校、高等女学校、家庭科
6	ジェンダーと社会—かくれたカリキュラム キーワード：男女を分けない教育、かくれたカリキュラム、ジェンダー・バイアス、進路選択
7	ジェンダーと社会—ジェンダーに敏感な教育 キーワード：「男子問題」、性的マイノリティ、ジェンダーに敏感な教育、男女平等教育
8	子ども・若者「問題」と社会—家庭の教育力は低下したのか キーワード：地域社会における産育、家庭の教育戦略、親役割の拡大、家族の多様化
9	子ども・若者「問題」と社会—青少年凶悪化言説を問い直す キーワード：少年犯罪の実態、若者への社会的関心の高まり、神戸連続児童殺傷事件、少年犯罪報道の問題点
10	子ども・若者「問題」と社会—若者の社会化と逸脱 キーワード：社会化、エージェント、反社会的行動、非社会的行動、ボンド理論
11	子ども・若者「問題」と社会—若者文化と学校 キーワード：絶対的価値規範の衰退、コミュニケーション能力、スクールカースト、友人関係
12	教育改革と社会—臨時教育審議会答申が提起するもの キーワード：教育の公共性、画一主義教育への批判、臨時教育審議会、個性重視の原則
13	教育改革と社会—新自由主義に基づく教育改革 キーワード：新自由主義、公的サービスの民営化、公教育自由化論、学校の個性化
14	教育改革と社会—社会に開かれた学校を目指して キーワード：学校の個性化、地域の教育力、学校運営協議会、学校・地域の連携と協働
15	教育改革と社会—子どもの安全・安心を保障するために キーワード：安全確保、危機管理、学校保健安全法、学校事故対応に関する指針

科目名	教育心理学	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	浅井 伸彦				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>1. 乳幼児期から思春期、青年期にいたるまでの心身の発達や心の動き、教育や学習、記憶や脳、知能に関する基礎知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>2. 児童生徒との関わり方や、教育・学習において知っておくべき知識・対人関係におけるコミュニケーションや心理学的知見を手に入れることを目標とする。</p>
授業概要
<p>遠隔授業</p> <p>教育心理学は、心理学の中でも特に教育に関係のある知見について研究する学問である。教育心理学には、乳幼児から大人に至る発達への理解のほか、児童生徒への教育・教授、また児童生徒自身の学習の過程、学童期・思春期・青年期における心の動きなど、幅広い事柄が含まれている。本講義では、児童生徒への関わり方を含めた教育心理学の基礎に関して、系統的に学ぶ。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
その日の講義内容を、その日のうちに復習することが望ましい。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
主体的な授業参加	50
課題提出	50

教科書			
教科書 1	探求！教育心理学の世界		
出版社名	新曜社	著者名	藤沢伸介 編
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育心理学とは ・オリエンテーションを行う。心理学における教育心理学の位置づけ、概要や意義について学ぶ。
2	心身の発達Ⅰ ・乳幼児～思春期・青年期にかけて、心身がどのように発達するかについて学ぶ。
3	心身の発達Ⅱ ・フロイトやピアジェ、エリクソンの発達段階について学ぶ。
4	記憶と学習 ・記憶の種類や仕組み、脳における記憶のメカニズムについて学ぶ。
5	学習と教育 ・学習理論や動機づけ、臨界期・敏感期、学級集団の性質について学ぶ。
6	知能と測定 ・知能とはなにか、また知能や学力の測定において重要な考え方を統計学に基づいて学ぶ。
7	特別支援教育と障害児教育
8	発達障害と学業不振児（アンダーアチーバー）
9	不登校、いじめと家族療法Ⅰ
10	不登校、いじめと家族療法Ⅱ
11	子どもの心身症と精神疾患 ・子どもに多い心身症や精神疾患について学ぶ。
12	スクールカウンセラーとチーム学校 ・スクールカウンセラーと教員の連携、チーム学校について学ぶ。
13	スクールカウンセリングと解決志向アプローチⅠ ・スクールカウンセリングや教員が行える心理的関わりについて学ぶ。
14	スクールカウンセリングと解決志向アプローチⅡ ・スクールカウンセリングや教員が行える心理的関わりについて学ぶ。
15	総まとめと試験

科目名	教育心理学	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	浅井 伸彦				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>1. 乳幼児期から思春期、青年期にいたるまでの心身の発達や心の動き、教育や学習、記憶や脳、知能に関する基礎知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>2. 児童生徒との関わり方や、教育・学習において知っておくべき知識・対人関係におけるコミュニケーションや心理学的知見を手に入れることを目標とする。</p>
授業概要
<p>遠隔授業</p> <p>教育心理学は、心理学の中でも特に教育に関係のある知見について研究する学問である。教育心理学には、乳幼児から大人に至る発達への理解のほか、児童生徒への教育・教授、また児童生徒自身の学習の過程、学童期・思春期・青年期における心の動きなど、幅広い事柄が含まれている。本講義では、児童生徒への関わり方を含めた教育心理学の基礎に関して、系統的に学ぶ。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
その日の講義内容を、その日のうちに復習することが望ましい。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
主体的な授業参加	50
課題提出	50

教科書			
教科書 1	探求！教育心理学の世界		
出版社名	新曜社	著者名	藤沢伸介 編
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育心理学とは ・オリエンテーションを行う。心理学における教育心理学の位置づけ、概要や意義について学ぶ。
2	心身の発達Ⅰ ・乳幼児～思春期・青年期にかけて、心身がどのように発達するかについて学ぶ。
3	心身の発達Ⅱ ・フロイトやピアジェ、エリクソンの発達段階について学ぶ。
4	記憶と学習 ・記憶の種類や仕組み、脳における記憶のメカニズムについて学ぶ。
5	学習と教育 ・学習理論や動機づけ、臨界期・敏感期、学級集団の性質について学ぶ。
6	知能と測定 ・知能とはなにか、また知能や学力の測定において重要な考え方を統計学に基づいて学ぶ。
7	特別支援教育と障害児教育
8	発達障害と学業不振児（アンダーアチーバー）
9	不登校、いじめと家族療法Ⅰ
10	不登校、いじめと家族療法Ⅱ
11	子どもの心身症と精神疾患 ・子どもに多い心身症や精神疾患について学ぶ。
12	スクールカウンセラーとチーム学校 ・スクールカウンセラーと教員の連携、チーム学校について学ぶ。
13	スクールカウンセリングと解決志向アプローチⅠ ・スクールカウンセリングや教員が行える心理的関わりについて学ぶ。
14	スクールカウンセリングと解決志向アプローチⅡ ・スクールカウンセリングや教員が行える心理的関わりについて学ぶ。
15	総まとめと試験

科目名	教育心理学	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	浅井 伸彦				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>1. 乳幼児期から思春期、青年期にいたるまでの心身の発達や心の動き、教育や学習、記憶や脳、知能に関する基礎知識を学ぶことを目的とする。</p> <p>2. 児童生徒との関わり方や、教育・学習において知っておくべき知識・対人関係におけるコミュニケーションや心理学的知見を手に入れることを目標とする。</p>	
授業概要	
<p>遠隔授業</p> <p>教育心理学は、心理学の中でも特に教育に関係のある知見について研究する学問である。教育心理学には、乳幼児から大人に至る発達への理解のほか、児童生徒への教育・教授、また児童生徒自身の学習の過程、学童期・思春期・青年期における心の動きなど、幅広い事柄が含まれている。本講義では、児童生徒への関わり方を含めた教育心理学の基礎に関して、系統的に学ぶ。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
その日の講義内容を、その日のうちに復習することが望ましい。	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
主体的な授業参加	50
課題提出	50

教科書			
教科書 1	探求！教育心理学の世界		
出版社名	新曜社	著者名	藤沢伸介 編
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL	

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教育心理学とは ・オリエンテーションを行う。心理学における教育心理学の位置づけ、概要や意義について学ぶ。
2	心身の発達Ⅰ ・乳幼児～思春期・青年期にかけて、心身がどのように発達するかについて学ぶ。
3	心身の発達Ⅱ ・フロイトやピアジェ、エリクソンの発達段階について学ぶ。
4	記憶と学習 ・記憶の種類や仕組み、脳における記憶のメカニズムについて学ぶ。
5	学習と教育 ・学習理論や動機づけ、臨界期・敏感期、学級集団の性質について学ぶ。
6	知能と測定 ・知能とはなにか、また知能や学力の測定において重要な考え方を統計学に基づいて学ぶ。
7	特別支援教育と障害児教育
8	発達障害と学業不振児（アンダーアチーバー）
9	不登校、いじめと家族療法Ⅰ
10	不登校、いじめと家族療法Ⅱ
11	子どもの心身症と精神疾患 ・子どもに多い心身症や精神疾患について学ぶ。
12	スクールカウンセラーとチーム学校 ・スクールカウンセラーと教員の連携、チーム学校について学ぶ。
13	スクールカウンセリングと解決志向アプローチⅠ ・スクールカウンセリングや教員が行える心理的関わりについて学ぶ。
14	スクールカウンセリングと解決志向アプローチⅡ ・スクールカウンセリングや教員が行える心理的関わりについて学ぶ。
15	総まとめと試験

科目名	教育相談	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>教員が行う「教育相談」とは、学校教育のあらゆる機会を捉え、生徒一人一人の教育上の問題に対して望ましい在り方について支援することであり、「学校教育相談」ともいう。管理職はもとより担任・養護教諭・教育相談担当・生徒指導担当等々が、自らの立場から「チーム学校」として対応することが望まれる。受講者には、教育相談に関する基本的な知識を修得し、教員として可能な教育相談とは何かを主体的に考え、実践意欲を養ってほしい。</p>
授業概要
<p>遠隔授業 生徒一人一人の問題解決の為、（学校）教育相談、予防的対応の在り方について事例研究を中心に展開する。授業者は、教育委員会教育センター所長、公立学校・私立学校長として、多くの子ども達並びに保護者と接し、教育相談に関わる実践的な対応を多く経験したことから、それらを授業の中に効果的に反映する。ものの見方・感じ方・考え方は、一人ひとり異なることを体得できる授業を展開する。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<p>授業ごとに配布する資料は、熟読・復習すること。資料は重ねて活用するので適切に保管し、持参すること。</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
試験二回目	40
試験一回目	40
授業中の発言・参加状況	20

教科書			
教科書 1	生徒指導提要		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	教師のための教育相談の技術		
出版社名	金子書房	著者名	吉田圭吾
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
公立及び私立小学校校長、教育センター所長等として勤務した経験を生かし、児童・生徒等や保護者等との対応のあり方、基本的な理念について指導する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	(学校)教育相談とは何か、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的な事柄）とその意義と課題について考える ～生徒指導、学校教育相談、教育相談、それぞれの特質を知り、教員としての在り方を考える～
2	子ども理解と指導 ～乳児期、幼児期、児童期、青年期のもの見方・感じ方・考え方の特性を知り、指導の在り方を考える～
3	学校教育相談における組織的体制づくり ～学校教育相談に関わる担当者とその果たすべき役割（子どもが発するシグナルに対する気づき等）及び組織的具体的な生徒への関わりについて検討する～
4	学級担任が行う学校教育相談と学級づくり ～カウンセリングの基礎的知識とカウンセリングマインドの必要性を理解すると共に、一人で問題を取り込まない対応と学級づくりにおける予防的対応～
5	不登校生徒の理解と対応 ～全国的な状況を知ると共に、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
6	いじめ問題の理解と対応① ～全国的な状況を知ると共に、発達段階・発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
7	これまでの学修の振り返りと確かめの試験（試験一回目）
8	発達障害に対する理解と教育の場における対応の在り方 ～障害の特性を知り、障害のある方、その保護者の声に耳を傾けると共に、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
9	学級崩壊・授業崩壊の現状と具体的対応の在り方 ～どのような状況においても、「受容」「傾聴」「共感的理解」の姿勢を持ち対応することの必要性を事例研究、ロールプレイを通して体得する～
10	いじめ問題の理解と対応② ～学校教育の最大の課題であることから教員としていじめ問題の実際と対応について考えを深める、そのため、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
11	保護者対応 ～ロールプレイを通して、教員として保護者に「寄り添う」ことの難しさ、心の葛藤を知ると共に、子どもの教育にはその保護者との連携が必要であることも知る～
12	教員のメンタルヘルス ～どのような教師になりたいか、どのような教育を展開したいか語り合うと共に、自らの健康がその基盤となることを知る～
13	教育相談でも活用できる新たな人間関係づくりの手法を体験する(構成的グループエンカウンター、ピア・サポート活動等)
14	これまでの学修の振り返りと確かめの試験（試験二回目）
15	学校カウンセリングの実際及びカウンセリングの基礎についての振り返り

科目名	教育相談	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>教員が行う「教育相談」とは、学校教育のあらゆる機会を捉え、生徒一人一人の教育上の問題に対して望ましい在り方について支援することであり、「学校教育相談」ともいう。管理職はもとより担任・養護教諭・教育相談担当・生徒指導担当等々が、自らの立場から「チーム学校」として対応することが望まれる。受講者には、教育相談に関する基本的な知識を修得し、教員として可能な教育相談とは何かを主体的に考え、実践意欲を養ってほしい。</p>
授業概要
<p>遠隔授業 生徒一人一人の問題解決の為、（学校）教育相談、予防的対応の在り方について事例研究を中心に展開する。授業者は、教育委員会教育センター所長、公立学校・私立学校長として、多くの子ども達並びに保護者と接し、教育相談に関わる実践的な対応を多く経験したことから、それらを授業の中に効果的に反映する。ものの見方・感じ方・考え方は、一人ひとり異なることを体得できる授業を展開する。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<p>授業ごとに配布する資料は、熟読・復習すること。資料は重ねて活用するので適切に保管し、持参すること。</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
試験二回目	40
授業中の発言・参加状況	20
試験一回目	40

教科書			
教科書 1	生徒指導提要		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	教師のための教育相談の技術		
出版社名	金子書房	著者名	吉田圭吾
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
公立及び私立小学校校長、教育センター所長等として勤務した経験を生かし、児童・生徒等や保護者等との対応のあり方、基本的な理念について指導する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	(学校)教育相談とは何か、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的な事柄）とその意義と課題について考える ～生徒指導、学校教育相談、教育相談、それぞれの特質を知り、教員としての在り方を考える～
2	子ども理解と指導 ～乳児期、幼児期、児童期、青年期のものの見方・感じ方・考え方の特性を知り、指導の在り方を考える～
3	学校教育相談における組織的体制づくり ～学校教育相談に関わる担当者とその果たすべき役割（子どもが発するシグナルに対する気づき等）及び組織的具体的な生徒への関わりについて検討する～
4	学級担任が行う学校教育相談と学級づくり ～カウンセリングの基礎的知識とカウンセリングマインドの必要性を理解すると共に、一人で問題を取り込まない対応と学級づくりにおける予防的対応～
5	不登校生徒の理解と対応 ～全国的な状況を知ると共に、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
6	いじめ問題の理解と対応① ～全国的な状況を知ると共に、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
7	これまでの学修の振り返りと確かめの試験（試験一回目）
8	発達障害に対する理解と教育の場における対応の在り方 ～障害の特性を知り、障害のある方、その保護者の声に耳を傾けると共に、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
9	学級崩壊・授業崩壊の現状と具体的対応の在り方 ～どのような状況においても、「受容」「傾聴」「共感的理解」の姿勢を持ち対応することの必要性を事例研究、ロールプレイを通して体得する～
10	いじめ問題の理解と対応② ～学校教育の最大の課題であることから教員としていじめ問題の実際と対応について考えを深める、そのため、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
11	保護者対応 ～ロールプレイを通して、教員として保護者に「寄り添う」ことの難しさ、心の葛藤を知ると共に、子どもの教育にはその保護者との連携が必要であることも知る～
12	教員のメンタルヘルス ～どのような教師になりたいか、どのような教育を展開したいか語り合うと共に、自らの健康がその基盤となることを知る～
13	教育相談でも活用できる新たな人間関係づくりの手法を体験する(構成的グループエンカウンター、ピア・サポート活動等)
14	これまでの学修の振り返りと確かめの試験（試験二回目）
15	学校カウンセリングの実際及びカウンセリングの基礎についての振り返り

科目名	教育相談	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>教員が行う「教育相談」とは、学校教育のあらゆる機会を捉え、生徒一人一人の教育上の問題に対して望ましい在り方について支援することであり、「学校教育相談」ともいう。管理職はもとより担任・養護教諭・教育相談担当・生徒指導担当等々が、自らの立場から「チーム学校」として対応することが望まれる。受講者には、教育相談に関する基本的な知識を修得し、教員として可能な教育相談とは何かを主体的に考え、実践意欲を養ってほしい。</p>
授業概要
<p>遠隔授業 生徒一人一人の問題解決の為、（学校）教育相談、予防的対応の在り方について事例研究を中心に展開する。授業者は、教育委員会教育センター所長、公立学校・私立学校長として、多くの子ども達並びに保護者と接し、教育相談に関わる実践的な対応を多く経験したことから、それらを授業の中に効果的に反映する。ものの見方・感じ方・考え方は、一人ひとり異なることを体得できる授業を展開する。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<p>授業ごとに配布する資料は、熟読・復習すること。資料は重ねて活用するので適切に保管し、持参すること。</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
試験二回目	40
試験一回目	40
授業中の発言・参加状況	20

教科書			
教科書 1	生徒指導提要		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	教師のための教育相談の技術		
出版社名	金子書房	著者名	吉田圭吾
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
公立及び私立小学校校長、教育センター所長等として勤務した経験を生かし、児童・生徒等や保護者等との対応のあり方、基本的な理念について指導する。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	(学校)教育相談とは何か、教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的な事柄）とその意義と課題について考える ～生徒指導、学校教育相談、教育相談、それぞれの特徴を知り、教員としての在り方を考える～
2	子ども理解と指導 ～乳児期、幼児期、児童期、青年期のものの見方・感じ方・考え方の特性を知り、指導の在り方を考える～
3	学校教育相談における組織的体制づくり ～学校教育相談に関わる担当者とその果たすべき役割（子どもが発するシグナルに対する気づき等）及び組織的具体的な生徒への関わりについて検討する～
4	学級担任が行う学校教育相談と学級づくり ～カウンセリングの基礎的知識とカウンセリングマインドの必要性を理解すると共に、一人で問題を取り込まない対応と学級づくりにおける予防的対応～
5	不登校生徒の理解と対応 ～全国的な状況を知ると共に、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
6	いじめ問題の理解と対応① ～全国的な状況を知ると共に、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
7	これまでの学修の振り返りと確かめの試験（試験一回目）
8	発達障害に対する理解と教育の場における対応の在り方 ～障害の特性を知り、障害のある方、その保護者の声に耳を傾けると共に、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
9	学級崩壊・授業崩壊の現状と具体的対応の在り方 ～どのような状況においても、「受容」「傾聴」「共感的理解」の姿勢を持ち対応することの必要性を事例研究、ロールプレイを通して体得する～
10	いじめ問題の理解と対応② ～学校教育の最大の課題であることから教員としていじめ問題の実際と対応について考えを深める、そのため、発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を個別の事例を通して検討する～
11	保護者対応 ～ロールプレイを通して、教員として保護者に「寄り添う」ことの難しさ、心の葛藤を知ると共に、子どもの教育にはその保護者との連携が必要であることも知る～
12	教員のメンタルヘルス ～どのような教師になりたいか、どのような教育を展開したいか語り合うと共に、自らの健康がその基盤となることを知る～
13	教育相談でも活用できる新たな人間関係づくりの手法を体験する(構成的グループエンカウンター、ピア・サポート活動等)
14	これまでの学修の振り返りと確かめの試験（試験二回目）
15	学校カウンセリングの実際及びカウンセリングの基礎についての振り返り

科目名	教育方法論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	村上 優				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>本授業では、自己の体験を振り返ることから、現在の教育方法を考察する。そして学力とは何かを考えることによって、学び効果を高める教育方法論について考察を深めていく。さらに、学びを支援する方法をデザインすることを通して、カリキュラム構成、評価方法、さらには学びを高める環境構成についても考える。この授業を通して、豊かな教育観と創造的授業観を持つことができることを目標としている。</p>
授業概要
<p>対面授業</p> <p>本授業は、学生自身の教育体験を分析することから始める。その中で、学びを進めるプロセスの諸要素について改善すべきことを明らかにする。その後、ノートテイキング、板書、教室の環境構成、評価、カリキュラム、メディア環境構成等について分析を進めていく。</p> <p>実務経験：中学校教諭、科学教育研究所研究員</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<p>教育職員免許状の取得を目指す教科であるので、「教員になる」との自覚の上で受講すること。授業内での課題レポートは、創造的、独創的なものを期待する。</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業への参加意欲と能動的参加態度	50
課題レポートの内容と完成度	50

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	教育の方法		
出版社名	左右社	著者名	佐藤学
参考書名 2	教育方法学		
出版社名	岩波書店	著者名	佐藤学
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL	
参考資料	『中学校学習指導要領解説』 文部科学省, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chukaisetsu/ 『高等学校学習指導要領解説』 文部科学省, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1282000.htm
特記事項	

教員実務経験
中学校教諭、科学教育研究所所員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション：講義内容の概要、評価方法、講義の進め方、マイクロティーチング形式のミニ授業の説明
2	自分の教育経験・体験の振り返り：素晴らしい授業体験、好きな教科、感動した授業、好きな先生像
3	教育の意味:教育とは何か、学力とは何か(脳科学の視点から考える)
4	ノートテイキング:コーネルノート、コンセプトマップ、マインドスケーピング
5	マインドマッピングテスト:マインドマッピングテストの実際
6	評価:評価とは何か 形成的評価について
7	学びの環境構成:教室内環境構成、未来のクラスルーム
8	コミュニケーションメディア:コミュニケーションを成立させる5つの要素
9	バズセッション（コミュニケーション育成のための）
10	外国の教育から学ぶ
11	カリキュラム構成と教材研究:実践事例をもとに
12	学習メディアとしてのコンピュータ1:コンピュータとは何か
13	学習メディアとしてのコンピュータ2:コンピュータの教育への活用
14	学習メディアとしてのインターネット:その活用と特徴
15	授業の総括（授業の質を高める要素について、教師と生徒の視点から振り返り、今後の課題を見通す）

科目名	教育方法論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	村上 優				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>本授業では、自己の体験を振り返ることから、現在の教育方法を考察する。そして学力とは何かを考えることによって、学び効果を高める教育方法論について考察を深めていく。さらに、学びを支援する方法をデザインすることを通して、カリキュラム構成、評価方法、さらには学びを高める環境構成についても考える。この授業を通して、豊かな教育観と創造的授業観を持つことができることを目標としている。</p>	
授業概要	
<p>オンライン授業 本授業は、学生自身の教育体験を分析することから始める。その中で、学びを進めるプロセスの諸要素について改善すべきことを明らかにする。その後、ノートテイキング、板書、教室の環境構成、評価、カリキュラム、メディア環境構成等について分析を進めていく 実務経験：中学校教諭、科学教育研究所研究員</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>教育職員免許状の取得を目指す教科であるので、「教員になる」との自覚の上で受講すること。授業内での積極的なディスカッションと担当のプレゼンテーションは、創造的、独創的なものを期待する。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業への参加意欲と能動的参加態度	50
課題レポートの内容と完成度	50

教科書	
教科書 1	
出版社名	著者名
教科書 2	
出版社名	著者名
教科書 3	
出版社名	著者名

参考書・参考文献	
参考書名 1	教育の方法
出版社名	左右社
著者名	佐藤学
参考書名 2	教育方法学
出版社名	岩波書店
著者名	佐藤学
参考書名 3	
出版社名	著者名
参考書名 4	
出版社名	著者名
参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL	
<p>参考資料『中学校学習指導要領解説』 文部科学省,http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chukaisetsu/ 『高等学校学習指導要領解説』 文部科学省,http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1282000.htm</p>	

特記事項
教員実務経験
中学校教諭、科学教育研究所所員

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション：講義内容の概要、評価方法、講義の進め方、マイクロティーチング形式のミニ授業の説明
2	自分の教育経験・体験の振り返り：素晴らしい授業体験、好きな教科、感動した授業、好きな先生像
3	教育の意味:教育とは何か、学力とは何か(脳科学の視点から考える)
4	ノートテイキング:コーネルノート、コンセプトマップ、マインドスケーピング
5	マインドマッピングテスト:マインドマッピングテストの実際
6	評価:評価とは何か 形成的評価について
7	学びの環境構成:教室内環境構成、未来のクラスルーム
8	コミュニケーションメディア:コミュニケーションを成立させる5つの要素
9	バズセッション（コミュニケーション育成のための）
10	外国の教育から学ぶ
11	カリキュラム構成と教材研究:実践事例をもとに
12	学習メディアとしてのコンピュータ1:コンピュータとは何か
13	学習メディアとしてのコンピュータ2:コンピュータの教育への活用
14	学習メディアとしてのインターネット:その活用と特徴
15	授業の総括（授業の質を高める要素について、教師と生徒の視点から振り返り、今後の課題を見通す）

科目名	教育方法論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	村上 優				
クラス名					

授業目的と到達目標	
<p>本授業では、自己の体験を振り返ることから、現在の教育方法を考察する。そして学力とは何かを考えることによって、学び効果を高める教育方法論について考察を深めていく。さらに、学びを支援する方法をデザインすることを通して、カリキュラム構成、評価方法、さらには学びを高める環境構成についても考える。この授業を通して、豊かな教育観と創造的授業観を持つことができることを目標としている。</p>	
授業概要	
<p>対面授業 本授業は、学生自身の教育体験を分析することから始める。その中で、学びを進めるプロセスの諸要素について改善すべきことを明らかにする。その後、ノートテイキング、板書、教室の環境構成、評価、カリキュラム、メディア環境構成等について分析を進めていく。さらに、マイクロティーチング形式のICTを利用したミニ授業を実施していく。 実務経験：中学校教諭、科学教育研究所研究員</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>教育職員免許状の取得を目指す教科であるので、自分が「教員である」との自覚の上で受講すること。授業内での積極的なディスカッションと担当のプレゼンテーションは、創造的、独創的なものを期待する。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業への参加意欲と能動的参加態度	50
プレゼンテーションの内容と創造	30
授業内レポートの内容	20

教科書	
教科書 1	
出版社名	著者名
教科書 2	
出版社名	著者名
教科書 3	
出版社名	著者名

参考書・参考文献	
参考書名 1	教育の方法
出版社名	左右社
著者名	佐藤学
参考書名 2	教育方法学
出版社名	岩波書店
著者名	佐藤学
参考書名 3	
出版社名	
著者名	
参考書名 4	
出版社名	
著者名	
参考書名 5	
出版社名	
著者名	

参考URL
参考資料『中学校学習指導要領解説』 文部科学省, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/chukaisetsu/ 『高等学校学習指導要領解説』 文部科学省, http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1282000.htm
特記事項
教員実務経験
中学校教諭、科学教育研究所所員

授業計画 (各回予定)	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション：講義内容の概要、評価方法、講義の進め方、マイクロティーチング形式のミニ授業の説明
2	自分の教育経験・体験の振り返り：素晴らしい授業体験、好きな教科、感動した授業、好きな先生像
3	教育の意味:教育とは何か、学力とは何か(脳科学の視点から考える) マイクロティーチング1 (表現技術 話し方・伝え方を中心に)
4	ノートテイキング:コーネルノート、コンセプトマップ、マインドスケーピング、マイクロティーチング2 (表現技術 視線・表情を中心に)
5	マインドマッピングテスト:マインドマッピングテストの実際 マイクロティーチング3 (構成技術 導入の方法と環境構成を中心に)
6	評価:評価とは何か 形成的評価について マイクロティーチング4 (提示技術 提示物の見せ方と工夫を中心に)
7	学び?の環境構成:教室内環境構成、未来のクラスルーム マイクロティーチング5 (構成技術 展開と結びを中心に)
8	コミュニケーションメディア:コミュニケーションを成立させる5つの要素 マイクロティーチング6 (構成技術 オープンエンドの展開を中心に)
9	バズセッション (コミュニケーション育成のための) マイクロティーチング7 (受け手認識 興味の引き出し 参加意欲を高めるを中心に)
10	外国の教育から学ぶ マイクロティーチング8 (送り手認識 緊張緩和 自信と照れを中心に)
11	カリキュラム構成と教材研究:実践事例をもとに マイクロティーチング9 (コミュニケーション技術 KORを中心に)
12	学習メディアとしてのコンピュータ1:コンピュータとは何か。マイクロティーチング10 (ICT技術 電子黒板を使ったプレゼンテーション技術の向上を中心に)
13	学習メディアとしてのコンピュータ2:コンピュータの教育への活用 マイクロティーチング11 (反転授業 ICTによる教育改革とアクティブ・ラーニングを中心に)
14	学習メディアとしてのインターネット:その活用と特徴 マイクロティーチングのまとめ12 (教育の方法と技術に関するまとめを中心に)
15	授業の総括 (マイクロティーチングを通して得られた授業の質を高める要素について、教師と生徒の視点から振り返り、今後の課題を見通す)

科目名	教職概論	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>授業目的：進路選択の際、教職を一つの選択肢として考えることができるようになるため、教職についての正しい知識を身につけることを目指す。</p> <p>到達目標：教職について多角的な視点から説明することができる。</p>
授業概要
<p>遠隔授業</p> <p>教職について、現代社会における特質、存在意義、歴史の変遷、職務内容、資質能力など、多角的な視点で考察していく。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・毎授業終了後、小レポートを作成してもらおう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
期末レポート	55
平常点：毎授業時に作成する小レポートの内容、授業態度等。	45

教科書			
教科書 1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教職に就くということ キーワード：教師イメージ、専門家としての教師、教職への進路
2	現代の教師① 「ゆとり」について知っておくべきこと キーワード：学習指導要領、受験重視教育への反省、ゆとり教育政策、学力低下不安
3	現代の教師② 保護者、子どもとの関係 キーワード：モンスターペアレント、失敗できない子育てプレッシャー、お客様意識の高まり、保護者との連携・協力
4	現代の教師③ 教師の負担と多忙感 キーワード：バーンアウト、全人教育、教師の仕事の拡大、学校教育への期待の拡大
5	現代の教師④チーム学校 キーワード：校教育の役割の拡大、問題解決能力の向上、業務改善、学校内外の連携
6	歴史にみる教師像①—教師聖職者観 キーワード：聖職者養成、人格者、寺子屋、教職の誇り
7	歴史にみる教師像②—戦前の教員養成システム キーワード：師範学校令、人物主義、師範タイプ、知識人
8	歴史にみる教師像③—戦後の教員養成システム キーワード：戦後教育改革、閉鎖型、開放型、教師労働者観
9	歴史にみる教師像④—奉仕者としての教師 キーワード：服務、四つの義務、身分保障、人材確保法
10	教師の仕事①—学習指導 キーワード：学習指導要領、教科書検定制度、年間指導計画、単元指導計画、学習指導案
11	教師の仕事②—生徒指導 キーワード：体罰、懲戒行為、正当防衛・行為、愛のムチ論
12	教師の仕事③—進路指導 キーワード：若者の就労問題、キャリア教育、職場体験、労働者としての権利教育
13	教師の資質と能力①—教師に求められているものとは何か キーワード：資質能力の向上、研修、教育公務員特例法、学び続ける教師
14	教師の資質と能力②—制度改革からみえるもの キーワード：資質能力の刷新、免許更新制度、指導力不足教員問題
15	教師の資質と能力③—評価の時代の教師たち キーワード：教員評価、教師の質の向上問題、授業評価、教職の自律性

科目名	教職概論	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>授業目的：進路選択の際、教職を一つの選択肢として考えることができるようになるため、教職についての正しい知識を身につけることを目指す。</p> <p>到達目標：教職について多角的な視点から説明することができる。</p>
授業概要
<p>遠隔授業</p> <p>教職について、現代社会における特質、存在意義、歴史の変遷、職務内容、資質能力など、多角的な視点で考察していく。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・毎授業終了後、小レポートを作成してもらおう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
期末レポート	55
平常点：毎授業時に作成する小レポートの内容、授業態度等。	45

教科書			
教科書 1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教職に就くということ キーワード：教師イメージ、専門家としての教師、教職への進路
2	現代の教師① 「ゆとり」について知っておくべきこと キーワード：学習指導要領、受験重視教育への反省、ゆとり教育政策、学力低下不安
3	現代の教師② 保護者、子どもとの関係 キーワード：モンスターペアレント、失敗できない子育てプレッシャー、お客様意識の高まり、保護者との連携・協力
4	現代の教師③ 教師の負担と多忙感 キーワード：バーンアウト、全人教育、教師の仕事の拡大、学校教育への期待の拡大
5	現代の教師④チーム学校 キーワード：校教育の役割の拡大、問題解決能力の向上、業務改善、学校内外の連携
6	歴史にみる教師像①—教師聖職者観 キーワード：聖職者養成、人格者、寺子屋、教職の誇り
7	歴史にみる教師像②—戦前の教員養成システム キーワード：師範学校令、人物主義、師範タイプ、知識人
8	歴史にみる教師像③—戦後の教員養成システム キーワード：戦後教育改革、閉鎖型、開放型、教師労働者観
9	歴史にみる教師像④—奉仕者としての教師 キーワード：服務、四つの義務、身分保障、人材確保法
10	教師の仕事①—学習指導 キーワード：学習指導要領、教科書検定制度、年間指導計画、単元指導計画、学習指導案
11	教師の仕事②—生徒指導 キーワード：体罰、懲戒行為、正当防衛・行為、愛のムチ論
12	教師の仕事③—進路指導 キーワード：若者の就労問題、キャリア教育、職場体験、労働者としての権利教育
13	教師の資質と能力①—教師に求められているものとは何か キーワード：資質能力の向上、研修、教育公務員特例法、学び続ける教師
14	教師の資質と能力②—制度改革からみえるもの キーワード：資質能力の刷新、免許更新制度、指導力不足教員問題
15	教師の資質と能力③—評価の時代の教師たち キーワード：教員評価、教師の質の向上問題、授業評価、教職の自律性

科目名	教職概論	年次	1	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>授業目的：進路選択の際、教職を一つの選択肢として考えることができるようになるため、教職についての正しい知識を身につけることを目指す。</p> <p>到達目標：教職について多角的な視点から説明することができる。</p>
授業概要
<p>対面授業</p> <p>教職について、現代社会における特質、存在意義、歴史の変遷、職務内容、資質能力など、多角的な視点で考察していく。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
・毎授業終了後、小レポートを作成してもらおう。あくまでも、その内容が評価対象であることに注意すること

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
期末レポート	55
平常点：毎授業時に作成する小レポートの内容、授業態度等。	45

教科書			
教科書 1	指定しない。適宜、授業内で資料プリントを配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	教職に就くということ キーワード：教師イメージ、専門家としての教師、教職への進路
2	現代の教師① 「ゆとり」について知っておくべきこと キーワード：学習指導要領、受験重視教育への反省、ゆとり教育政策、学力低下不安
3	現代の教師② 保護者、子どもとの関係 キーワード：モンスターペアレント、失敗できない子育てプレッシャー、お客様意識の高まり、保護者との連携・協力
4	現代の教師③ 教師の負担と多忙感 キーワード：バーンアウト、全人教育、教師の仕事の拡大、学校教育への期待の拡大
5	現代の教師④ チーム学校 キーワード：校教育の役割の拡大、問題解決能力の向上、業務改善、学校内外の連携
6	歴史にみる教師像①—教師聖職者観 キーワード：聖職者養成、人格者、寺子屋、教職の誇り
7	歴史にみる教師像②—戦前の教員養成システム キーワード：師範学校令、人物主義、師範タイプ、知識人
8	歴史にみる教師像③—戦後の教員養成システム キーワード：戦後教育改革、閉鎖型、開放型、教師労働者観
9	歴史にみる教師像④—奉仕者としての教師 キーワード：服務、四つの義務、身分保障、人材確保法
10	教師の仕事①—学習指導 キーワード：学習指導要領、教科書検定制度、年間指導計画、単元指導計画、学習指導案
11	教師の仕事②—生徒指導 キーワード：体罰、懲戒行為、正当防衛・行為、愛のムチ論
12	教師の仕事③—進路指導 キーワード：若者の就労問題、キャリア教育、職場体験、労働者としての権利教育
13	教師の資質と能力①—教師に求められているものとは何か キーワード：資質能力の向上、研修、教育公務員特例法、学び続ける教師
14	教師の資質と能力②—制度改革からみえるもの キーワード：資質能力の刷新、免許更新制度、指導力不足教員問題
15	教師の資質と能力③—評価の時代の教師たち キーワード：教員評価、教師の質の向上問題、授業評価、教職の自律性

科目名	教職実践演習（中・高）	年次	4	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子、土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標
この授業では、将来、教員になる上での自己の課題を自覚し、必要に応じて知識や技術を補い、その定着を図ることを目指す。到達目標は以下の2点。 ・大学4年間の学びから得た知見をもとに、教員として必要な実践的指導力の向上を図る ・グループ演習や討論を通じて、教員に求められる社会性とコミュニケーション能力の向上を図る
授業概要
[対面授業] 事例研究やグループ討論など演習を中心に授業を進める。教職の科目、教育実習、介護体験における学習成果を生かして演習の課題に取り組むことにより、教員に求められる資質能力について各自の修得状況を確認し、その向上を図る。
受講上の注意
自己の課題を常に意識し、主体的に授業に参加することを期待する

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
日常点(授業時に作成するレポート、発表内容、討論参加状況)	100

教科書情報			
教科書 1	指定しない。適宜、授業内で関連資料を配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
「教職課程履修記録」を持参すること。
教員実務経験
中学校校長（尾張佳子）

授業計画
<p>1 回目 オリエンテーション(「教職課程 履修記録」を基に、これまでの教職課程における学びを振り返り、各自の修得状況の確認を行う)・グループ分け(1 班、2 班)</p> <p>2 回目～1 5 回目 各班に分かれて授業実施</p> <p>2 回目～8 回目 1 班・・・土屋 2 班・・・尾張</p> <p>9 回目～1 5 回目 1 班・・・尾張 2 班・・・土屋</p> <p>土屋担当授業・・・教育現場における様々な事例をもとに討議して問題点を究明し、解決策を考える。教育現場が有する課題に対して実践的な問題解決能力を身につけることを目指す(事例研究を中心とした授業)。 取り上げる事例・・・授業中の生徒の問題行動への指導、保護者への対応方法、体罰防止に向けての取り組み、性的マイノリティの生徒への配慮など。事例によっては、ロールプレイングを実施する。</p> <p>尾張(中学校校長)担当授業・・・社会の変化に伴い、教育現場に求められていること、また教員に求められる資質能力について認識を深める。課題解決に向け、自己の考えを深めながら、実践的な討論形式を用い、グループ内で考えを共有させる。ロールプレイングや発表により考えの構築を図り、教育現場での活用を目指す。 取り上げる事例・・・「生徒理解」「児童虐待」「いじめ問題」「命の尊厳」「教室等のユニバーサルデザインについて」</p> <p>※外部講師による教育現場の最新事情に関する講演3回(予定)</p>

科目名	教職実践演習（中・高）	年次	4	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	演習		
教員名	尾張 佳子、土屋 尚子				
クラス名					

授業目的と到達目標
この授業では、将来、教員になる上での自己の課題を自覚し、必要に応じて知識や技術を補い、その定着を図ることを目指す。到達目標は以下の2点。 ・大学4年間の学びから得た知見をもとに、教員として必要な実践的指導力の向上を図る ・グループ演習や討論を通じて、教員に求められる社会性とコミュニケーション能力の向上を図る
授業概要
[対面授業] 事例研究やグループ討論など演習を中心に授業を進める。教職の科目、教育実習、介護体験における学習成果を生かして演習の課題に取り組むことによって、教員に求められる資質能力について各自の修得状況を確認し、その向上を図る。
受講上の注意
自己の課題を常に意識し、主体的に授業に参加することを期待する

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
日常点(授業時に作成するレポート、発表内容、討論参加状況)	100

教科書情報			
教科書 1	指定しない。適宜、授業内で関連資料を配布する。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1	指定しない。適宜、授業内で紹介する。		
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
「教職課程履修記録」を持参すること。
教員実務経験
中学校校長（尾張佳子）

<p>授業計画</p> <p>1回目 オリエンテーション(「教職課程 履修記録」を基に、これまでの教職課程における学びを振り返り、各自の修得状況の確認を行う)・グループ分け(1班、2班)</p> <p>2回目～15回目 各班に分かれて授業実施</p> <p>2回目～8回目 1班・・・土屋 2班・・・尾張</p> <p>9回目～15回目 1班・・・尾張 2班・・・土屋</p> <p>土屋担当授業・・・教育現場における様々な事例をもとに討議して問題点を究明し、解決策を考える。教育現場が有する課題に対して実践的な問題解決能力を身につけることを目指す(事例研究を中心とした授業)。 取り上げる事例・・・授業中の生徒の問題行動への指導、保護者への対応方法、体罰防止に向けての取り組み、性的マイノリティの生徒への配慮など。事例によっては、ロールプレイングを実施する。</p> <p>尾張(中学校校長)担当授業・・・社会の変化に伴い、教育現場に求められていること、また教員に求められる資質能力について認識を深める。課題解決に向け、自己の考えを深めながら、実践的な討論形式を用い、グループ内で考えを共有させる。ロールプレイングや発表により考えの構築を図り、教育現場での活用を目指す。 取り上げる事例・・・「生徒理解」「児童虐待」「いじめ問題」「命の尊厳」「教室等のユニバーサルデザインについて」</p> <p>※外部講師による教育現場の最新事情に関する講演3回(予定)</p>

科目名	情報メディアの活用	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	松井 純子				
クラス名					

授業目的と到達目標	
司書教諭に求められる情報メディア活用の基礎知識と実践的な技能を習得する。 (1)情報メディアの種類と特性について理解する。 (2)情報検索の知識と技能を習得する。 (3)パスファインダーの作成を通じて、情報活用能力の育成方法を具体的に把握する。	
授業概要	
対面授業 インターネットと情報環境の進展を背景に、学校図書館に対して多様なメディアの活用が要請されている。また、児童・生徒の情報活用能力の育成も、学校図書館の重要な役割である。 ここでは、情報メディアの種類と特性、情報検索の基礎などを述べた上で、多様なWebサイトやオンラインデータベースなどの検索演習を通じて、情報活用能力育成のための具体的方法を示す。さらにパスファインダーの作成を通じて、それらの具体化を図る。著作権や情報モラルに関わる問題も取り上げる。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
司書教諭は、教師として児童・生徒を指導する立場であることは言うまでもない。したがって、教師としての意識・自覚を持って受講すること。また、各回の授業テーマについて、受け身でなく、自分自身で考えるようにしてほしい。 遅刻・欠席は厳禁。	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
パスファインダーの作成・提出・プレゼンテーション	50
検索演習課題の提出	10
平常点 (ミニレポート、授業への取り組み姿勢)	40

教科書			
教科書 1	使用しない。プリントを配布。		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	情報を学習につなぐ：情報・メディアを活用する学び方の指導体系解説		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	全国学校図書館協議会編
参考書名 2	「アロハ図書館タイム」はじめます。：鳥取・羽合小：司書教諭による学校図書館活用授業		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	北田明美著
参考書名 3	学校図書館を活用する学び方の指導：課題設定から発表まで (新しい教育をつくる司書教諭のしごと 1)		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	宅間紘一著
参考書名 4	パスファインダーを作ろう：情報を探す道しるべ		
出版社名	全国学校図書館協議会	著者名	石狩管内高等学校図書館司書業務担当者研究会 著
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
学校図書館の現状に関する調査 リーフレット「学校図書館を、もっと身近で、使いやすく」
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	オリエンテーション 学校図書館の現状：文部科学省の調査結果をもとに
2	教育の情報化と学校図書館
3	学習指導要領における学校図書館と司書教諭
4	情報活用能力の育成と学校図書館 ・情報活用能力とは ・情報活用能力の育成と情報リテラシーモデル：「情報・メディアを活用する学び方の指導体系表」「ビッグ6」
5	情報メディアの種類と特性(1) ・鳥取・羽合小「学び方指導の内容体系表」を参考に ・パッケージ系メディア（印刷メディア、視聴覚メディア、電子メディア）とネットワーク系メディア（インターネット、オンラインデータベース）
6	情報メディアの種類と特性(2)情報メディアの収集・保存・提供とその特徴
7	学校図書館とコンピュータの活用
8	調べ学習とインターネットの活用(1) ・情報検索とインターネット ・検索エンジンの特性と検索機能 ・検索演習
9	調べ学習とインターネットの活用(2) ・各種検索サイトの活用 ・検索演習
10	調べ学習とインターネットの活用(3) ・オンラインデータベースの検索 ・検索演習
11	パスファインダーの作成(1) ・パスファインダーとは何か ・パスファインダーの事例
12	パスファインダーの作成(2) ・パスファインダー作成の実際（キーワードの選定、情報源の種類と選択、書誌記述の方法）
13	学校図書館と著作権(1)著作権法概説
14	学校図書館と著作権(2)学校教育と著作権
15	パスファインダーの作成(3) ・作成したパスファインダーについてのプレゼンテーション

科目名	人権教育論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>1) 日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。</p> <p>2) 人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。</p> <p>3) 現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。</p> <p>4) すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを修得する。</p>
授業概要
<p>【遠隔授業】</p> <p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等のアクティブラーニングの視点を踏まえた参加型学習法を提示する。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
毎時の指定されたテーマについて、テキストを事前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
感想カード	50%
レポート課題	50%

教科書			
教科書 1	『被差別マイノリティのいま 差別禁止制度を求める当事者の声』		
出版社名	解放出版社	著者名	(一社) 部落解放・人権研究所編
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

<p>人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm 人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/attach/1370611.htm</p>
特記事項
<p>教員実務経験</p> <p>日本国内の同和教育を始め海外において、障がいのある人、難民、移民の方々への就労支援、国際人権基準およびマイノリティを中心とした人権教育とその方法論に関する研究、実務経験を持つ教員が指導する。</p>

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	人権を国際的視点から考える 法務省ホームページYouTube『国際連合創設70周年記念全ての人の幸せを願って－国際的視点から考える人権－』視聴
2	国際人権教育 国際人権規約、国際人権条約、国際人権教育関連宣言や行動計画、実施の歴史的経緯、実施関連機関のメカニズム、実践事例等。
3	国内の人権教育 国内の法制度、基本計画、調査研究会議、指導法等の在り方に関する取りまとめ、地方自治体の取組、学校の実践事例等。
4	いじめ 「いじめ防止対策推進法」、いじめを認めない学級・学校経営、「自殺対策基本法」、安全に安心して学習できる環境作りの実践等。
5	子どもへの暴力 児童虐待の実態、「児童虐待防止法」、被害者の支援体制、児童虐待の予防対策、児童のエンパワメント実践事例等。
6	部落問題教育 部落問題教育（同和教育）の歴史的背景、実践事例、地域連携、国際人権教育との整合性、部落問題関連法、実態意識調査、最近の差別事象等。
7	インクルーシブ教育 歴史的背景、「障がい者権利条約」、国内の法整備、合理的配慮、支援教育の実践、介護等体験の意義等。
8	LGBTの視点を含めたジェンダー平等教育 ジェンダーの定義、LGBTについて、性的役割分業論、「女性差別撤廃条約」、国内法制度等。
9	多文化共生教育 世論調査、外国人住民調査、「ヘイトスピーチ解消法」、異文化交流、地域連携、自尊感情の育成、多様性の尊重、実践事例等。
10	ハンセン病問題 歴史と現在、3つの法律、01年「ハンセン病補償法」、09年「ハンセン病問題基本法」、08年に政府が提案し採択された国連決議等。
11	アイヌ民族 歴史、「アイヌ新法」、二風谷ダム裁判、先住民族の権利、偏見や差別、貧困、アイデンティティの問題等。
12	公害教育 歴史、裁判、法制度、対話、和解、公害を出さない街づくりの実践事例等。
13	開発教育 国際理解、世界経済、国際協力、「世界がもし100人の村だったら」ワーク等。
14	芸術教育 グローバル化時代を生きるために必要とされる、創造性、想像力、コミュニケーション能力、チームワーク等の社会的能力・スキルを育成するための教育理論、実践事例等。
15	アクティブラーニング 歴史的背景と手法の内容。

科目名	人権教育論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>1) 日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。</p> <p>2) 人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。</p> <p>3) 現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。</p> <p>4) すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを修得する。</p>
授業概要
<p>【遠隔授業】</p> <p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等のアクティブラーニングの視点を踏まえた参加型学習法を提示する。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
毎時の指定されたテーマについて、テキストを事前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
感想カード	50%
レポート課題	50%

教科書			
教科書 1	『被差別マイノリティのいま 差別禁止制度を求める当事者の声』		
出版社名	解放出版社	著者名	(一社) 部落解放・人権研究所編
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

<p>人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm 人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/attach/1370611.htm</p>
特記事項
<p>教員実務経験</p> <p>日本国内の同和教育を始め海外において、障がいのある人、難民、移民の方々への就労支援、国際人権基準およびマイノリティを中心とした人権教育とその方法論に関する研究、実務経験を持つ教員が指導する。</p>

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	人権を国際的視点から考える 法務省ホームページYouTube『国際連合創設70周年記念全ての人の幸せを願ってー国際的視点から考える人権ー』視聴
2	国際人権教育 国際人権規約、国際人権条約、国際人権教育関連宣言や行動計画、実施の歴史的経緯、実施関連機関のメカニズム、実践事例等。
3	国内の人権教育 国内の法制度、基本計画、調査研究会議、指導法等の在り方に関する取りまとめ、地方自治体の取組、学校の実践事例等。
4	いじめ 「いじめ防止対策推進法」、いじめを認めない学級・学校経営、「自殺対策基本法」、安全に安心して学習できる環境作りの実践等。
5	子どもへの暴力 児童虐待の実態、「児童虐待防止法」、被害者の支援体制、児童虐待の予防対策、児童のエンパワメント実践事例等。
6	部落問題教育 部落問題教育（同和教育）の歴史的背景、実践事例、地域連携、国際人権教育との整合性、部落問題関連法、実態意識調査、最近の差別事象等。
7	インクルーシブ教育 歴史的背景、「障がい者権利条約」、国内の法整備、合理的配慮、支援教育の実践、介護等体験の意義等。
8	LGBTの視点を含めたジェンダー平等教育 ジェンダーの定義、LGBTについて、性的役割分業論、「女性差別撤廃条約」、国内法制度等。
9	多文化共生教育 世論調査、外国人住民調査、「ヘイトスピーチ解消法」、異文化交流、地域連携、自尊感情の育成、多様性の尊重、実践事例等。
10	ハンセン病問題 歴史と現在、3つの法律、01年「ハンセン病補償法」、09年「ハンセン病問題基本法」、08年に政府が提案し採択された国連決議等。
11	アイヌ民族 歴史、「アイヌ新法」、二風谷ダム裁判、先住民族の権利、偏見や差別、貧困、アイデンティティの問題等。
12	公害教育 歴史、裁判、法制度、対話、和解、公害を出さない街づくりの実践事例等。
13	開発教育 国際理解、世界経済、国際協力、「世界がもし100人の村だったら」ワーク等。
14	芸術教育 グローバル化時代を生きるために必要とされる、創造性、想像力、コミュニケーション能力、チームワーク等の社会的能力・スキルを育成するための教育理論、実践事例等。
15	アクティブラーニング 歴史的背景と手法の内容。

科目名	人権教育論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>1) 日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。</p> <p>2) 人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。</p> <p>3) 現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。</p> <p>4) すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを修得する。</p>
授業概要
<p>【遠隔授業】</p> <p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等のアクティブラーニングの視点を踏まえた参加型学習法を提示する。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
毎時の指定されたテーマについて、テキストを事前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
感想カード	50%
レポート課題	50%

教科書			
教科書 1	『被差別マイノリティのいま 差別禁止制度を求める当事者の声』		
出版社名	解放出版社	著者名	(一社) 部落解放・人権研究所編
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

<p>人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/attach/1370611.htm 人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm</p>
特記事項
<p>教員実務経験</p> <p>日本国内の同和教育を始め海外において、障がいのある人、難民、移民の方々への就労支援、国際人権基準およびマイノリティを中心とした人権教育とその方法論に関する研究、実務経験を持つ教員が指導する。</p>

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	人権を国際的視点から考える 法務省ホームページYouTube『国際連合創設70周年記念全ての人の幸せを願って－国際的視点から考える人権－』視聴
2	国際人権教育 国際人権規約、国際人権条約、国際人権教育関連宣言や行動計画、実施の歴史的経緯、実施関連機関のメカニズム、実践事例等。
3	国内の人権教育 国内の法制度、基本計画、調査研究会議、指導法等の在り方に関する取りまとめ、地方自治体の取組、学校の実践事例等。
4	いじめ 「いじめ防止対策推進法」、いじめを認めない学級・学校経営、「自殺対策基本法」、安全に安心して学習できる環境作りの実践等。
5	子どもへの暴力 児童虐待の実態、「児童虐待防止法」、被害者の支援体制、児童虐待の予防対策、児童のエンパワメント実践事例等。
6	部落問題教育 部落問題教育（同和教育）の歴史的背景、実践事例、地域連携、国際人権教育との整合性、部落問題関連法、実態意識調査、最近の差別事象等。
7	インクルーシブ教育 歴史的背景、「障がい者権利条約」、国内の法整備、合理的配慮、支援教育の実践、介護等体験の意義等。
8	LGBTの視点を含めたジェンダー平等教育 ジェンダーの定義、LGBTについて、性的役割分業論、「女性差別撤廃条約」、国内法制度等。
9	多文化共生教育 世論調査、外国人住民調査、「ヘイトスピーチ解消法」、異文化交流、地域連携、自尊感情の育成、多様性の尊重、実践事例等。
10	ハンセン病問題 歴史と現在、3つの法律、01年「ハンセン病補償法」、09年「ハンセン病問題基本法」、08年に政府が提案し採択された国連決議等。
11	アイヌ民族 歴史、「アイヌ新法」、二風谷ダム裁判、先住民族の権利、偏見や差別、貧困、アイデンティティの問題等。
12	公害教育 歴史、裁判、法制度、対話、和解、公害を出さない街づくりの実践事例等。
13	開発教育 国際理解、世界経済、国際協力、「世界がもし100人の村だったら」ワーク等。
14	芸術教育 グローバル化時代を生きるために必要とされる、創造性、想像力、コミュニケーション能力、チームワーク等の社会的能力・スキルを育成するための教育理論、実践事例等。
15	アクティブラーニング 歴史的背景と手法の内容。

科目名	人権教育論	年次	カリキュラムにより異なります。	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	石川 結加				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>1) 日本をはじめ世界に存在する差別、不平等、格差等の問題を私事として捉え、正しく理解する。</p> <p>2) 人権問題を国際人権基準をはじめ、国内の法律や社会制度と関連づけながら理解する。</p> <p>3) 現存する人権をめぐる諸課題の解決策を模索しながら、誰もが住みやすい社会の将来像を描き、教育の役割について考える。</p> <p>4) すでに国内で取り組まれている人権に関連する教育実践を学ぶとともに、取得した知識を使って教育現場で活かせる技能やスキルを修得する。</p>
授業概要
<p>【遠隔授業】</p> <p>国連が採択した人権教育関連決議や行動計画をはじめ、国内における人権教育に関わる法律及び基本計画、そして指導方法等に関するとりまとめを理解する。また、国際人権基準や日本国憲法で謳われている基本的人権を踏まえて国内の人権問題を課題別に歴史、現状、関連法及び対策、教育実践等について考察する。さらに、人権を主体的に深く学ぶため、グループワークやディスカッション等のアクティブラーニングの視点を踏まえた参加型学習法を提示する。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
毎時の指定されたテーマについて、テキストを事前に読んでおくこと。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
感想カード	50%
レポート課題	50%

教科書			
教科書 1	『被差別マイノリティのいま 差別禁止制度を求める当事者の声』		
出版社名	解放出版社	著者名	(一社) 部落解放・人権研究所編
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

<p>人権及び人権教育について 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/attach/1370611.htm 人権教育の指導方法等の在り方について〔第三次とりまとめ〕 文部科学省 http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/024/report/08041404.htm</p>
特記事項
<p>教員実務経験</p> <p>日本国内の同和教育を始め海外において、障がいのある人、難民、移民の方々への就労支援、国際人権基準およびマイノリティを中心とした人権教育とその方法論に関する研究、実務経験を持つ教員が指導する。</p>

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	人権を国際的視点から考える 法務省ホームページYouTube『国際連合創設70周年記念全ての人の幸せを願って－国際的視点から考える人権－』視聴
2	国際人権教育 国際人権規約、国際人権条約、国際人権教育関連宣言や行動計画、実施の歴史的経緯、実施関連機関のメカニズム、実践事例等。
3	国内の人権教育 国内の法制度、基本計画、調査研究会議、指導法等の在り方に関する取りまとめ、地方自治体の取組、学校の実践事例等。
4	いじめ 「いじめ防止対策推進法」、いじめを認めない学級・学校経営、「自殺対策基本法」、安全に安心して学習できる環境作りの実践等。
5	子どもへの暴力 児童虐待の実態、「児童虐待防止法」、被害者の支援体制、児童虐待の予防対策、児童のエンパワメント実践事例等。
6	部落問題教育 部落問題教育（同和教育）の歴史的背景、実践事例、地域連携、国際人権教育との整合性、部落問題関連法、実態意識調査、最近の差別事象等。
7	インクルーシブ教育 歴史的背景、「障がい者権利条約」、国内の法整備、合理的配慮、支援教育の実践、介護等体験の意義等。
8	LGBTの視点を含めたジェンダー平等教育 ジェンダーの定義、LGBTについて、性的役割分業論、「女性差別撤廃条約」、国内法制度等。
9	多文化共生教育 世論調査、外国人住民調査、「ヘイトスピーチ解消法」、異文化交流、地域連携、自尊感情の育成、多様性の尊重、実践事例等。
10	ハンセン病問題 歴史と現在、3つの法律、01年「ハンセン病補償法」、09年「ハンセン病問題基本法」、08年に政府が提案し採択された国連決議等。
11	アイヌ民族 歴史、「アイヌ新法」、二風谷ダム裁判、先住民族の権利、偏見や差別、貧困、アイデンティティの問題等。
12	公害教育 歴史、裁判、法制度、対話、和解、公害を出さない街づくりの実践事例等。
13	開発教育 国際理解、世界経済、国際協力、「世界がもし100人の村だったら」ワーク等。
14	芸術教育 グローバル化時代を生きるために必要とされる、創造性、想像力、コミュニケーション能力、チームワーク等の社会的能力・スキルを育成するための教育理論、実践事例等。
15	アクティブラーニング 歴史的背景と手法の内容。

科目名	生徒指導と進路指導論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>情報化が進展する中で、児童生徒の問題行動等の背景には規範意識や倫理観の低下が関係していると指摘されている。生徒指導は一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。生徒指導論では「生徒指導提要」を中核とした情報の収集と分析を行的確な演習を通じて、生徒指導に求められる知識や技能を習得させるように取り組む。</p>	
授業概要	
<p>対面授業で行います。 「生徒指導」は「学習指導」と並んで学校教育において重要な意義を持つものである。校則違反、飲酒喫煙、薬物乱用、窃盗、万引きなどの反社会的問題行動の実態と原因について理解を図る。問題行動はなぜ発生するのかを考え、日常の学校生活をどう取り組むべきかを考察する。学校において児童生徒の将来に向けてどのようなことが実践できるのか等、生徒指導の在り方を考察する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>生徒にとって楽しい学校とは、どのようにすればよいかということを基本とし、学校生活、家庭生活をどう過ごさせるかを考える。教師として専門性を高めると意識を常に持って参加する。教育を取り巻く社会状況の変化や新聞・マスメディアなどのニュースに関心を持つ。生徒指導論の配布資料を整理し、要点の整理を通じて理解を深める。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
レポート1~10	50%
課題論文	30%
期末筆記テスト	20%

教科書			
教科書 1	生徒指導提要		
出版社名	教育図書株式会社	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
中学校教諭 学年主任 生徒指導主事 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長 中学校長会会長

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	生徒指導論のシラバスと授業方針を知る。生徒指導提要の活用の意義を学ぶ。学級の荒れが始まる時を考える。
2	生徒指導は学校生活のすべてに作用する教育機能。生徒指導の体制づくり。生徒指導体制の確立の意義とは。
3	生徒理解とその方法。生徒理解に対する基礎知識。子どもの内面の理解から。保護者との面接。
4	社会的自立をめざす生徒指導。学級づくり。係・当番の活動。
5	問題行動に対する生徒指導Ⅰ 校則違反、飲酒、喫煙
6	問題行動に対する生徒指導Ⅱ 薬物乱用、窃盗・万引き
7	問題行動に対する生徒指導Ⅲ 暴力行為 対教師暴力はなぜ起きるのか。
8	問題行動に対する生徒指導Ⅳ いじめ いじめ問題の早期発見・早期指導
9	問題行動に対する生徒指導Ⅴ 家出、性非行
10	問題行動に対する生徒指導Ⅵ 不登校 家庭訪問・相談活動を通して改善を図る。
11	将来への目的意識の醸成 キャリア教育の推進 生徒の能力・適性を的確に把握し計画的な指導を行う。
12	生徒指導と進路指導 進路指導は学校教育の総和 自分の人生をいかに生きるか 全力で挑戦させる。
13	学校教育における最近事例からの考察Ⅰ インターネット・ケータイ問題 IT社会の諸問題を考える。
14	学校教育における最近事例からの考察Ⅱ 学習障害(LD)など特別支援教育について考える。
15	生徒指導力の向上、教師力の向上、学校力の向上 教育相談活動の充実と活性化 生徒との心のふれあいについて考える。

科目名	生徒指導と進路指導論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標	
<p>情報化が進展する中で、児童生徒の問題行動等の背景には規範意識や倫理観の低下が関係していると指摘されている。生徒指導は一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。生徒指導論では「生徒指導提要」を中核とした情報の収集と分析を行的確な演習を通じて、生徒指導に求められる知識や技能を習得させるように取り組む。</p>	
授業概要	
<p>対面授業で行います。 「生徒指導」は「学習指導」と並んで学校教育において重要な意義を持つものである。校則違反、飲酒喫煙、薬物乱用、窃盗、万引きなどの反社会的問題行動の実態と原因について理解を図る。問題行動はなぜ発生するのかを考え、日常の学校生活をどう取り組むべきかを考察する。学校において児童生徒の将来に向けてどのようなことが実践できるのか等、生徒指導の在り方を考察する。</p>	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
<p>生徒にとって楽しい学校とは、どのようにすればよいかということを基本とし、学校生活、家庭生活をどう過ごさせるかを考える。教師として専門性を高めるという意識を常に持って参加する。教育を取り巻く社会状況の変化や新聞・マスメディアなどのニュースに関心を持つ。生徒指導論の配布資料を整理し、要点の整理を通じて理解を深める。</p>	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
レポート1~10	50%
課題論文	30%
期末筆記テスト	20%

教科書			
教科書 1	生徒指導提要		
出版社名	教育図書株式会社	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
中学校教諭 学年主任 生徒指導主事 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	生徒指導論のシラバスと授業方針を知る。生徒指導提要の活用の意義を学ぶ。学級の荒れが始まる時を考える。
2	生徒指導は学校生活のすべてに作用する教育機能。生徒指導の体制づくり。生徒指導体制の確立の意義とは。
3	生徒理解とその方法。生徒理解に対する基礎知識。子どもの内面の理解から。保護者との面接。
4	社会的自立をめざす生徒指導。学級づくり。係・当番の活動。
5	問題行動に対する生徒指導Ⅰ 校則違反、飲酒、喫煙
6	問題行動に対する生徒指導Ⅱ 薬物乱用、窃盗・万引き
7	問題行動に対する生徒指導Ⅲ 暴力行為 対教師暴力はなぜ起きるのか。
8	問題行動に対する生徒指導Ⅳ いじめ いじめ問題の早期発見・早期指導
9	問題行動に対する生徒指導Ⅴ 家出、性非行
10	問題行動に対する生徒指導Ⅵ 不登校 家庭訪問・相談活動を通して改善を図る。
11	将来への目的意識の醸成 キャリア教育の推進 生徒の能力・適性を的確に把握し計画的な指導を行う。
12	生徒指導と進路指導 進路指導は学校教育の総和 自分の人生をいかに生きるか 全力で挑戦させる。
13	学校教育における最近事例からの考察Ⅰ インターネット・ケータイ問題 IT社会の諸問題を考える。
14	学校教育における最近事例からの考察Ⅱ 学習障害(LD)など特別支援教育について考える。
15	生徒指導力の向上、教師力の向上、学校力の向上 教育相談活動の充実と活性化 生徒との心のふれあいについて考える。

科目名	生徒指導と進路指導論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	松山 明				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
<p>情報化が進展する中で、児童生徒の問題行動等の背景には規範意識や倫理観の低下が関係していると指摘されている。生徒指導は一人ひとりの児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら社会的資質や行動力を高めるように指導、援助するものである。生徒指導論では「生徒指導提要」を中核とした情報の収集と分析を行的確な演習を通じて、生徒指導に求められる知識や技能を習得させるように取り組む。</p>
授業概要
<p>対面授業で行います。 「生徒指導」は「学習指導」と並んで学校教育において重要な意義を持つものである。校則違反、飲酒喫煙、薬物乱用、窃盗、万引きなどの反社会的問題行動の実態と原因について理解を図る。問題行動はなぜ発生するのかを考え、日常の学校生活をどう取り組むべきかを考察する。学校において児童生徒の将来に向けてどのようなことが実践できるのか等、生徒指導の在り方を考察する。</p>
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
<p>生徒にとって楽しい学校とは、どのようにすればよいかということを基本とし、学校生活、家庭生活をどう過ごさせるかを考える。教師として専門性を高めると意識を常に持って参加する。教育を取り巻く社会状況の変化や新聞・マスメディアなどのニュースに関心を持つ。生徒指導論の配布資料を整理し、要点の整理を通じて理解を深める。</p>

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
レポート1~10	50%
課題論文	30%
期末筆記テスト	20%

教科書			
教科書 1	生徒指導提要		
出版社名	教育図書株式会社	著者名	文部科学省
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
中学校教諭 学年主任 生徒指導主事 教育委員会指導部中学校教育課指導主事 中学校校長

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	生徒指導論のシラバスと授業方針を知る。生徒指導提要の活用の意義を学ぶ。学級の荒れが始まる時を考える。
2	生徒指導は学校生活のすべてに作用する教育機能。生徒指導の体制づくり。生徒指導体制の確立の意義とは。
3	生徒理解とその方法。生徒理解に対する基礎知識。子どもの内面の理解から。保護者との面接。
4	社会的自立をめざす生徒指導。学級づくり。係・当番の活動。
5	問題行動に対する生徒指導Ⅰ 校則違反、飲酒、喫煙
6	問題行動に対する生徒指導Ⅱ 薬物乱用、窃盗・万引き
7	問題行動に対する生徒指導Ⅲ 暴力行為 対教師暴力はなぜ起きるのか。
8	問題行動に対する生徒指導Ⅳ いじめ いじめ問題の早期発見・早期指導
9	問題行動に対する生徒指導Ⅴ 家出、性非行
10	問題行動に対する生徒指導Ⅵ 不登校 家庭訪問・相談活動を通して改善を図る。
11	将来への目的意識の醸成 キャリア教育の推進 生徒の能力・適性を的確に把握し計画的な指導を行う。
12	生徒指導と進路指導 進路指導は学校教育の総和 自分の人生をいかに生きるか 全力で挑戦させる。
13	学校教育における最近事例からの考察Ⅰ インターネット・ケータイ問題 IT社会の諸問題を考える。
14	学校教育における最近事例からの考察Ⅱ 学習障害(LD)など特別支援教育について考える。
15	生徒指導力の向上、教師力の向上、学校力の向上 教育相談活動の充実と活性化 生徒との心のふれあいについて考える。

科目名	総合的な学習の時間の指導法	年次		単位数	1
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	尾張 佳子				
クラス名					

授業目的と到達目標
<p>【授業目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 探求的な見方、考え方の育成を目指し、「横断的、総合的な学習」の企画立案および「社会における課題等を考える」指導を行う資質能力の育成。 <p>【到達目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「総合的な学習の時間」の意義を理解するとともに具体事例を企画立案することができる
授業概要
<p>[対面授業]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 課題を探求し、様々な視点から考察、分析を行い探求する学びを深める ・ 指導案作成、模擬授業などの実践を通じて学校教育の中で付けるべき力を考える
受講上の注意
積極的な姿勢でしっかりとしたプレゼンテーションを行う

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
模擬授業	40
指導案・レポート等	40
授業に取組む姿勢	20

教科書情報			
教科書 1	学習指導要領解説—総合的な学習の時間編		
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書情報			
参考書名 1			
出版社名		著者名	
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験
中学校校長

授業計画	
第1回	学習指導要領の理解を深める。「総合的な学習の時間」の意義を学ぶ
第2回	具体的な実践事例をもとに、「総合的な学習の時間」の展開方法を学ぶ
第3回	探求的な見方・考え方、横断的・総合的な学習の視点で具体事例を考える
第4回	指導事例の企画・立案・作成①
第5回	指導事例の企画・立案・作成②
第6回	模擬授業の実施①
第7回	模擬授業の実施②
第8回	模擬授業の反省および「総合的な学習の時間」の総括

科目名	道徳指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名					

授業目的と到達目標
「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35分の1の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。その上で、「考え議論する」道徳の授業とはどういうものかを実践的に試行し、指導力を身に付ける。
授業概要
対面と遠隔の併用授業 「特別の教科 道徳」のあり方について理論的に検討すると共に、それに則した授業のあり方について学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身に付ける。授業者は、小学校教諭時代から実践的な経験を通して長らく「道徳教育」に関わってきた。公立・私立学校長として道徳教育を通じたカリキュラムマネジメントにも携わってきた。それらを授業の中に効果的に反映する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・国際理解・環境問題等現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
試験一回目	30
試験二回目	40
授業中の発言・参加状況	30

教科書			
教科書 1	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	道徳教育の方法		
出版社名	放送大学教育振興会	著者名	堺 正之
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
小学校教員、管理職等として40年間、道徳教育・道徳科に関わって研究を進めてきた経験を生かして、道徳科の授業のあり方について、習得させる。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」① ・自らが受けた道徳教育・道徳科を振り返ったり、改めて道徳教育・道徳科の例を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳の授業の必要性について議論すると共に、これからの道徳教育のあり方を探る。
2	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」② ・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳がもつ課題や新しい道徳への期待について考える。
3	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」③ ・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。
4	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」① ・学習指導要領解説を活用しながら、道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的なイメージを持つ。
5	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」② ・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の指導と指導案の関係について知る。
6	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心（現代的課題）を生かして生徒が興味をもつだろうと思う教材の開発可能性を探る。
7	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心（現代的課題）を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。
8	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤ ・開発した教材を使った授業のあり方を検討し、指導案を作成(簡易版)する。
9	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥ ・前時の指導案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。
10	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」① ・既成の教材数種から一種選択し、指導案づくりについて学習する。 ・教材研究を行う。
11	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」② ・選んだ教材をもとに、指導案づくりを体験する(子どもが主体的に取り組める授業展開とはどのようなものなのか話し合い、工夫する)。
12	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」③

	・選んだ教材をもとに指導案づくりを体験する(主題名(内容項目)、主題設定の理由、指導観、本時のねらい、指導の流れ、評価等について検討する)。
1 3	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」④ ・各自作成した指導案を活用して授業のあり方について、同教材を使用する履修者どうしが集まり、検討し合う。
1 4	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」⑤ ・異なる教材を使用する履修者どうしで、模擬授業を行う。
1 5	対面授業 模擬授業を振り返り、授業のあり方について検討すると共に、これまでの学習全体を振り返る。

科目名	道徳指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名					

授業目的と到達目標
「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35分の1の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。その上で、「考え議論する」道徳の授業とはどういうものかを実践的に試行し、指導力を身に付ける。
授業概要
対面と遠隔の併用授業 「特別の教科 道徳」のあり方について理論的に検討すると共に、それに則した授業のあり方について学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身に付ける。授業者は、小学校教諭時代から実践的な経験を通して長らく「道徳教育」に関わってきた。公立・私立学校長として道徳教育を通じたカリキュラムマネジメントにも携わってきた。それらを授業の中に効果的に反映する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・国際理解・環境問題等現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
授業中の発言・参加状況	30
試験二回目	40
試験一回目	30

教科書			
教科書 1	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	道徳教育の方法		
出版社名	放送大学教育振興会	著者名	堺 正之
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
小学校教員、管理職等として40年間、道徳教育・道徳科に関わって研究を進めてきた経験を生かして、道徳科の授業のあり方について、習得させる。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」① ・自らが受けた道徳教育・道徳科を振り返ったり、改めて道徳教育・道徳科の例を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳の授業の必要性について議論すると共に、これからの道徳教育のあり方を探る。
2	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」② ・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳がもつ課題や新しい道徳への期待について考える。
3	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」③ ・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。
4	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」① ・学習指導要領解説を活用しながら、道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的なイメージを持つ。
5	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」② ・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の指導と指導案の関係について知る。
6	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心（現代的課題）を生かして生徒が興味をもつだろうと思う教材の開発可能性を探る。
7	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心（現代的課題）を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。
8	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤ ・開発した教材を使った授業のあり方を検討し、指導案を作成(簡易版)する。
9	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥ ・前時の指導案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。
10	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」① ・既成の教材数種から一種選択し、指導案づくりについて学習する。 ・教材研究を行う。
11	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」② ・選んだ教材をもとに、指導案づくりを体験する(子どもが主体的に取り組める授業展開とはどのようなものなのか話し合い、工夫する)。
12	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」③

	・選んだ教材をもとに指導案づくりを体験する(主題名(内容項目)、主題設定の理由、指導観、本時のねらい、指導の流れ、評価等について検討する)。
1 3	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」④ ・各自作成した指導案を活用して授業のあり方について、同教材を使用する履修者どうしが集まり、検討し合う。
1 4	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」⑤ ・異なる教材を使用する履修者どうしで、模擬授業を行う。
1 5	対面授業 模擬授業を振り返り、授業のあり方について検討すると共に、これまでの学習全体を振り返る。

科目名	道徳指導法	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	小山 久子				
クラス名					

授業目的と到達目標
「特別の教科 道徳」は道徳教育の補充・深化・統合の場であり、全体計画・指導計画に則り展開されていることを知る。即ち、35分の1の授業は、学校教育活動全体と関わって実施されるべきものであるというカリキュラムマネジメントの視点を知る。その上で、「考え議論する」道徳の授業とはどういうものかを実践的に試行し、指導力を身に付ける。
授業概要
対面と遠隔の併用授業 「特別の教科 道徳」のあり方について理論的に検討すると共に、それに則した授業のあり方について学ぶ。現代的な課題も踏まえた教材開発、指導案作成、模擬授業を繰り返すことによって実践的な指導力を身に付ける。授業者は、小学校教諭時代から実践的な経験を通して長らく「道徳教育」に関わってきた。公立・私立学校長として道徳教育を通じたカリキュラムマネジメントにも携わってきた。それらを授業の中に効果的に反映する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業ごとに配布された資料・教材は、熟読しておくことが望ましい。日々の生活の中で起こる事象、いじめ問題・国際理解・環境問題等現代的な課題において、道徳科教材となり得るものについて研究を進めておく。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
試験一回目	30
試験二回目	40
授業中の発言・参加状況	30

教科書			
教科書 1	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編		
出版社名	文部科学省	著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	道徳教育の方法		
出版社名	放送大学教育振興会	著者名	堺 正之
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験
小学校教員、管理職等として40年間、道徳教育・道徳科に関わって研究を進めてきた経験を生かして、道徳科の授業のあり方について、習得させる。

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」① ・自らが受けた道徳教育・道徳科を振り返ったり、改めて道徳教育・道徳科の例を見たり、模擬体験したりすることによって、道徳教育、道徳の授業の必要性について議論すると共に、これからの道徳教育のあり方を探る。
2	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」② ・道徳教育の歴史について知ることを通して、学習指導要領解説道徳編を活用しながら、これまでの道徳がもつ課題や新しい道徳への期待について考える。
3	遠隔授業 「道徳教育は必要ですか?」③ ・道徳性の発達について発達心理学の観点から理解すると共に、道徳教育および道徳科のねらい、課題など、道徳教育の基礎的知識について深く理解する。
4	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」① ・学習指導要領解説を活用しながら、道徳教育および道徳科の目標、内容項目、全体・年間計画等について理解すると共に、授業ビデオを視聴することによって、授業の具体的なイメージを持つ。
5	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」② ・教師がどんな思いを持って授業に望んでいるのかをビデオ視聴することによって理解すると共に、実際の指導と指導案の関係について知る。
6	遠隔授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」③ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心（現代的課題）を生かして生徒が興味をもつだろうと思う教材の開発可能性を探る。
7	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」④ ・自分が属する学科での学修や日頃の興味関心（現代的課題）を生かして教材開発する。開発した教材を活用した授業の可能性を探る。
8	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑤ ・開発した教材を使った授業のあり方を検討し、指導案を作成(簡易版)する。
9	対面授業 「今、どんな道徳の授業が求められているのでしょうか?」⑥ ・前時の指導案を活用して模擬授業をする。これまでの学習を振り返ると共に確認の試験をする。
10	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」① ・既成の教材数種から一種選択し、指導案づくりについて学習する。 ・教材研究を行う。
11	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」② ・選んだ教材をもとに、指導案づくりを体験する(子どもが主体的に取り組める授業展開とはどのようなものなのか話し合い、工夫する)。
12	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」③

	・選んだ教材をもとに指導案づくりを体験する(主題名(内容項目)、主題設定の理由、指導観、本時のねらい、指導の流れ、評価等について検討する)。
1 3	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」④ ・各自作成した指導案を活用して授業のあり方について、同教材を使用する履修者どうしが集まり、検討し合う。
1 4	対面授業 「模擬授業に挑戦しよう。」⑤ ・異なる教材を使用する履修者どうしで、模擬授業を行う。
1 5	対面授業 模擬授業を振り返り、授業のあり方について検討すると共に、これまでの学習全体を振り返る。

科目名	特別活動指導法	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	加納 明彦				
クラス名					

授業目的と到達目標	
特別活動は「なすことによって学ぶ」を基調においた学びです。学校での様々な集団活動を通して、課題の発見や解決を経験する事で、自らが属す集団に貢献したいという意欲・態度とそのためスキルを身につける事を目標にしている。学級活動、生徒会活動、学校行事を通じて「何が出来るようになるのか」「何を学ぶか」「どのようにまなぶか」をふまえて、育成すべき資質・能力を知って特別活動への実践的な姿勢と企画力をつける事が目標です。	
授業概要	
対面の予定でしたが4月19日の授業から全面リモート授業に変更します。 「なすことによって学ぶ」というのが特別活動の特徴です。この授業は、受講者自身の実践を大事にします。同時に、特別活動は、広い分野の教育活動に繋がっています。広い視野で子どもの社会的な自立を支援する姿勢を育てるために。 ・グループ別に分かれてワークショップ形式で企画作りや発表などをおこなう。 ・外部からのゲストティーチャーの協力を得て実際の取り組みの課題を深める。 ・タイムリーな教材を入れるのでシラパスの変更することもあります。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
・授業に参加して一緒に考えることが一番大事です。欠席しないこと。 ・特に必要な場合は、事前に読んでおくべき教材を渡します。 ・グループで話し合う機会があります。積極的に参加してください。 ・平常点の中身は、授業での対話やワークへの参加度、「行事の企画案作り」等の課題提出も含みます。	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点	50
レポートによる試験	50

教科書	
教科書 1	特にありません。適時プリント配布
出版社名	著者名
教科書 2	
出版社名	著者名
教科書 3	
出版社名	著者名

参考書・参考文献	
参考書名 1	「中学校学習指導要領解説 特別活動編」
出版社名	東山書房
著者名	文部科学省
参考書名 2	
出版社名	著者名
参考書名 3	
出版社名	著者名
参考書名 4	
出版社名	著者名
参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL
特記事項
対面での授業になります。
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	特別活動の指導要領上の位置付けと教育目標を理解する。受講生それぞれの、今までの学習経験を振り返り、どのような活動が、特別活動であったかを振り返る。特別活動が実際に展開される場が、学級活動・生徒会活動・学校行事であること、ここでの活動が学校全体の教育課程の遂行の中での重要な位置であることを理解させる。(基礎1)
2	新学習指導要領改訂による特別活動で育てたい資質・能力の具体について、従来の指導要領の「望ましい集団活動を通して」との教育目標の継承発展の視点で理解する。(基礎2)
3	改訂の中心となる考え方である「社会に開かれた教育課程」についてその意義と具体的な内容を理解する。地元の学校で活動しているSSWやサポーターの実践例を知り社会に開かれた学校の意義を理解する。(基礎3)
4	特別活動の教育理念の基底にある「なすことによって学ぶ」の意味について、体験学習のプロセスの理解や、PDCAサイクルを学ぶことによって、特別活動のカリキュラムを効果的に構成するマネジメントの発想を学ぶ。(基礎4)
5	学級活動は、特別活動が展開される拠点である。学級は、生徒にとっては身近な社会生活と言える。学級づくりを通しての人間関係の築き方などを学ぶ。そこで育てた力が実社会に出ても活用できる力に繋がる。支持的風土の醸成された学級づくりに向けた学級活動の課題と目標について理解する。担任として育ておくべき資質態度について考察する。(学級活動1)
6	担任として育ておくべき、コミュニケーションスキルについて体験的に学ぶ。現在実践をおこなっている人の事例から、実際の高校現場で展開されている特別活動の内容を体験し、担任としての役割や関わりのあり方を考察する。(学級活動2)
7	担任が行う学級活動の“要”が、話し合い活動の指導であることに留意させる。合意形成のワークを受講者が体験することで、クラス全員が参加できる話し合いを作るには何が必要か考える。特別活動において「主体的・対話的で深い学び」を実践するアクティブラーニングの手法を知る。(学級活動3)
8	いじめが起きない、起こっても解決できる。そんな学級、学校を創り育てることは、社会からの要請である。いじめの問題を人間関係形成の視点から多様に分析し、クラスづくりに活用していく能力資質を育てるために、事例研究を通して、考察する。同時に、制定された「いじめ防止対策推進法」（平成25年）の趣旨を学び、虐待などととも、生徒の立場に立って問題解決に向かう資質態度について学ぶ。(学級活動4)
9	クラス作りにおいて求められている今日的な課題は、多様性の尊重である。従来の一斉指導的な関わり方ではなく、それぞれの生徒が持っている課題を具体的に知った上で、それを超えて互いを受容し合う関係性の構築が課題となる。この回では、発達障害のある生徒を受け入れるクラス作りの実践を考察することで多様性の受容について考える。(学級活動5)
10	特別活動と各教科等との双方向の関係について理解する。特に「総合的な学習の時間」との共通点と相違について。特別活動の実施の中での道徳性の滋養を通じた「道徳」との関係、今回の改訂で強調されたキャリア教育との関係について具体的な実践を知り、理解する。(他の教科等との連携)
11	生徒会活動は、異年齢の生徒同士で諸課題の解決に向けて、計画、役割分担、協力して自主的・実践的に協働的にすすめられる特別活動である。その活動の意義について理解する。(生徒会1)
12	ボランティア活動等の社会参画は、社会に開かれた教育課程を担う実践的教育活動と言える。それ以外にも考えられる地域社会と協働した取り組みの可能性について考察する。(生徒会2)
13	学校行事は、全校または学年という大きな集団を単位として、生徒が喜びや苦勞を分かち合いながら協力する体験的な活動である。大学生に聞くと、今までの学校生活で一番印象に残っているのは文化祭や合唱コンクール体育祭などの学校行事である事が多い。感動によって心を動かす経験が心に残るのである。そのような感動を共有できる学校行事の指導案作りについて考察する。(学校行事1)
14	今までの学習をふまえて、あなたが考える望ましい学校行事について設定して指導案を作る。 i ,題材と主なねらい ii ,育てたい力 iii ,どのように学ぶかを明確にする事を学ぶ。(学校行事2)
15	特別活動で学んだ能力態度が以降の人生の中でどのように生かされていくのかについて考察する。よりよい社会作りや他者との協働的な活動の意味について、国民、市民として社会の中で積極的に集団生活を担う事の意味について考察する。(発展)

科目名	特別活動指導法	年次	3	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	加納 明彦				
クラス名					

授業目的と到達目標	
特別活動は「なすことによって学ぶ」を基調においた学びです。学校での様々な集団活動を通して、課題の発見や解決を経験する事で、自らが属す集団に貢献したいという意欲・態度とそのためスキルを身につける事を目標にしている。学級活動、生徒会活動、学校行事を通じて「何ができるようになるのか」「何を学ぶか」「どのようにまなぶか」をふまえて、育成すべき資質・能力を知って特別活動への実践的な姿勢と企画力をつける事が目標です。	
授業概要	
対面での授業になります。 「なすことによって学ぶ」というのが特別活動の特徴です。この授業は、受講者自身の実践を大事にします。同時に、特別活動は、広い分野の教育活動に繋がっています。広い視野で子どもの社会的な自立を支援する姿勢を育てるために。 ・グループ別に分かれてワークショップ形式で企画作りや発表などをおこなう。 ・外部からのゲストティーチャーの協力を得て実際の取り組みの課題を深める。 ・タイムリーな教材を入れるのでシラパスの変更することもあります。	
準備学修(予習・復習)・受講上の注意	
・授業に参加して一緒に考えることが一番大事です。欠席しないこと。 ・特に必要な場合は、事前に読んでおくべき教材を渡します。 ・グループで話し合う機会があります。積極的に参加してください。 ・平常点の中身は、授業での対話やワークへの参加度、「行事の企画案作り」等の課題提出も含みます。	

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
平常点	50
レポートによる試験	50

教科書	
教科書 1	特にありません。適時プリント配布
出版社名	著者名
教科書 2	
出版社名	著者名
教科書 3	
出版社名	著者名

参考書・参考文献	
参考書名 1	「中学校学習指導要領解説 特別活動編」
出版社名	東山書房
著者名	文部科学省
参考書名 2	
出版社名	著者名
参考書名 3	
出版社名	著者名
参考書名 4	
出版社名	著者名
参考書名 5	
出版社名	著者名

参考URL
特記事項
対面での授業になります。(状況によりリモートも併用します) 12月13日の授業からは対面授業が基本となります。 特別な事情がありリモートを希望する人は、UNIPAのQ&Aで申し出てください。
教員実務経験

授業計画 (各回予定)	
授業回	授業内容
1	特別活動の指導要領上の位置付けと教育目標を理解する。受講生それぞれの、今までの学習経験を振り返り、どのような活動が、特別活動であったかを振り返る。特別活動が実際に展開される場が、学級活動・生徒会活動・学校行事であること、ここでの活動が学校全体の教育課程の遂行の中での重要な位置であることを理解させる。(基礎1)
2	新学習指導要領改訂による特別活動で育てたい資質・能力の具体について、従来の指導要領の「望ましい集団活動を通して」との教育目標の継承発展の視点で理解する。(基礎2)
3	改訂の中心となる考え方である「社会に開かれた教育課程」についてその意義と具体的な内容を理解する。地元の学校で活動しているSSWやサポーターの実践例を知り社会に開かれた学校の意義を理解する。(基礎3)
4	特別活動の教育理念の基底にある「なすことによつて学ぶ」の意味について、体験学習のプロセスの理解や、PDCAサイクルを学ぶことによって、特別活動のカリキュラムを効果的に構成するマネジメントの発想を学ぶ。(基礎4)
5	学級活動は、特別活動が展開される拠点である。学級は、生徒にとっては身近な社会生活と言える。学級づくりを通しての人間関係の築き方などを学ぶ。そこで育てた力が実社会に出ても活用できる力に繋がる。支持的風土の醸成された学級づくりに向けた学級活動の課題と目標について理解する。担任として育ておくべき資質態度について考察する。(学級活動1)
6	担任として育ておくべき、コミュニケーションスキルについて体験的に学ぶ。現在実践をおこなっている人の事例から、実際の高校現場で展開されている特別活動の内容を体験し、担任としての役割や関わりのあり方を考察する。(学級活動2)
7	担任が行う学級活動の“要”が、話し合い活動の指導であることに留意させる。合意形成のワークを受講者が体験することで、クラス全員が参加できる話し合いを作るには何が必要か考える。特別活動において「主体的・対話的で深い学び」を実践するアクティブラーニングの手法を知る。(学級活動3)
8	いじめが起きない、起こっても解決できる。そんな学級、学校を創り育てることは、社会からの要請である。いじめの問題を人間関係形成の視点から多様に分析し、クラスづくりに活用していく能力資質を育てるために、事例研究を通して、考察する。同時に、制定された「いじめ防止対策推進法」(平成25年)の趣旨を学び、虐待などととも、生徒の立場に立って問題解決に向かう資質態度について学ぶ。(学級活動4)
9	クラス作りにおいて求められている今日的な課題は、多様性の尊重である。従来の一斉指導的な関わり方ではなく、それぞれの生徒が持っている課題を具体的に知った上で、それを超えて互いを受容し合う関係性の構築が課題となる。この回では、発達障害のある生徒を受け入れるクラス作りの実践を考察することで多様性の受容について考える。(学級活動5)
10	特別活動と各教科等との双方向の関係について理解する。特に「総合的な学習の時間」との共通点と相違について。特別活動の実施の中での道徳性の滋養を通じた「道徳」との関係、今回の改訂で強調されたキャリア教育との関係について具体的な実践を知り、理解する。(他の教科等との連携)
11	生徒会活動は、異年齢の生徒同士で諸課題の解決に向けて、計画、役割分担、協力して自主的・実践的に協働的にすすめられる特別活動である。その活動の意義について理解する。(生徒会1)
12	ボランティア活動等の社会参画は、社会に開かれた教育課程を担う実践的教育活動と言える。それ以外にも考えられる地域社会と協働した取り組みの可能性について考察する。(生徒会2)
13	学校行事は、全校または学年という大きな集団を単位として、生徒が喜びや苦勞を分かち合いながら協力する体験的な活動である。大学生に聞くと、今までの学校生活で一番印象に残っているのは文化祭や合唱コンクール体育祭などの学校行事である事が多い。感動によって心を動かす経験が心に残るのである。そのような感動を共有できる学校行事の指導案作りについて考察する。(学校行事1)
14	今までの学習をふまえて、あなたが考える望ましい学校行事について設定して指導案を作る。 i ,題材と主なねらい ii ,育てたい力 iii ,どのように学ぶかを明確にする事を学ぶ。(学校行事2)
15	特別活動で学んだ能力態度が以降の人生の中でどのように生かされていくのかについて考察する。よりよい社会作りや他者との協働的な活動の意味について、国民、市民として社会の中で積極的に集団生活を担う事の意味について考察する。(発展)

科目名	特別支援教育理論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	冢門 鉄治				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。
授業概要
[対面授業] (第2回、3回の講義は遠隔 (VTRとUNIPA) 授業の予定) 特別支援教育槽の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業では、障害名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかり取って聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
定期試験	60
提出物	30
授業態度	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	「はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために」改訂版		
出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子 (編)
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障害とは:「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。通級による指導の必要性について検討を加える。
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。
4	注意欠陥多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 ADHDの三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
5	発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ。自立活動の学校での位置づけと内容について学ぶ。
6	知的障害の理解と指導・支援:知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
7	身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援:教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるか等、支援の方法などについて学ぶ。
8	中間総括:障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整理し、課題に取り組む。
9	学習障害の理解と指導・支援:SLDの定義に含まれる音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題について事例を通じて理解し、配慮にとどまらず子どもの何を伸ばすのか指導・支援法のポイントを学ぶ。
10	いじめと不登校:いじめを受けている児童・生徒への適切な支援、不登校になっている児童・生徒への適切な学習環境の提供とは、対応方法、支援の方法について学ぶ。
11	障害はないが、貧困・育児放棄家庭への支援 貧困による就学困難児童・生徒への支援方法や、育児放棄家庭における保護者への対応方法を考える。
12	障害はないが、日本語が話せない児童・生徒への支援方法 さまざまな理由により日本語を話すことができない児童・生徒が学校に存在する。国際化社会の中で見落としてはならない問題について考える。
13	「個別の指導計画」を作成する。自ら選択した支援の必要なケースを想定し、特別支援が必要な児童・生徒に合わせた指導計画を作成する。
14	保護者、専門機関、地域との連携による支援:支援の効果は保護者との丁寧な情報交換、校内での協力体制の構築、専門家との連携などでさらにアップすること、特別支援教育コーディネータがそれらの中心的な役割を担うことなどを学ぶ。
15	全体総括:特別支援教育の基本、支援が必要な子どものさまざまな特性についての基本的理解、アセスメントや適切な支援とは何かなど科目を通じて学んだ概念・情報を整理し、改めーして復習し課題に取り組む。

科目名	特別支援教育理論	年次		単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	講義		
教員名	冢門 鉄治				
クラス名	【18以前生対象】				

授業目的と到達目標
特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。
授業概要
[対面授業] (第2回、3回の講義は遠隔 (VTRとUNIPA) 授業の予定) 特別支援教育槽の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業では、障害名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかり取って聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
定期試験	60
提出物	30
授業態度	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	「はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために」改訂版		
出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子 (編)
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障害とは:「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。通級による指導の必要性について検討を加える。
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。
4	注意欠陥多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 ADHDの三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
5	発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ。自立活動の学校での位置づけと内容について学ぶ。
6	知的障害の理解と指導・支援:知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
7	身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援:教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるか等、支援の方法などについて学ぶ。
8	中間総括:障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整理し、課題に取り組む。
9	学習障害の理解と指導・支援:SLDの定義に含まれる音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題について事例を通じて理解し、配慮にとどまらず子どもの何を伸ばすのか指導・支援法のポイントを学ぶ。
10	いじめと不登校:いじめを受けている児童・生徒への適切な支援、不登校になっている児童・生徒への適切な学習環境の提供とは、対応方法、支援の方法について学ぶ。
11	障害はないが、貧困・育児放棄家庭への支援 貧困による就学困難児童・生徒への支援方法や、育児放棄家庭における保護者への対応方法を考える。
12	障害はないが、日本語が話せない児童・生徒への支援方法 さまざまな理由により日本語を話すことができない児童・生徒が学校に存在する。国際化社会の中で見落としてはならない問題について考える。
13	「個別の指導計画」を作成する。自ら選択した支援の必要なケースを想定し、特別支援が必要な児童・生徒に合わせた指導計画を作成する。
14	保護者、専門機関、地域との連携による支援:支援の効果は保護者との丁寧な情報交換、校内での協力体制の構築、専門家との連携などでさらにアップすること、特別支援教育コーディネータがそれらの中心的な役割を担うことなどを学ぶ。
15	全体総括:特別支援教育の基本、支援が必要な子どものさまざまな特性についての基本的理解、アセスメントや適切な支援とは何かなど科目を通じて学んだ概念・情報を整理し、改めーして復習し課題に取り組む。

科目名	特別支援教育理論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 前期	形態	演習		
教員名	田中 裕美子				
クラス名	【18以前生対象】				

授業目的と到達目標
通常級に在籍する発達障害を中心に様々な障害の特性や教育的ニーズ、集団内および個別の支援教育の制度や基本理念について概説する。診断されていないが教育的ニーズのある子どもを含め、通常級の事例などを通して子どもの特性、発達、長所・短所を捉え、実際にはどのような困り感を抱えているか、合理的配慮や支援とはどういうことかについて具体的述べる。また、保護者とのコミュニケーションにおける配慮や対応・支援の方法についても解説する。
授業概要
授業は原則、遠隔で行います。 通常級に在籍する発達障害を中心に様々な障害の特性や教育的ニーズ、集団内および個別の支援教育の制度や基本理念について概説する。診断されていないが教育的ニーズのある子どもを含め、通常級の事例などを通して子どもの特性、発達、長所・短所を捉え、実際にはどのような困り感を抱えているか、合理的配慮や支援とはどういうことかについて具体的述べる。また、保護者とのコミュニケーションにおける配慮や対応・支援の方法についても解説する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
毎回、授業内容に関する資料を配布する。視聴覚教材を用いた講義を参考に各自で配布された資料を完成させ、ファイルに整理し、授業に持参する。授業の最後にリアクションペーパー（キーセンテンス：最も常用後思ったことを文にする。質問がある場合は記述する）を仕上げて提出する。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
テストおよび定期成績	60
提出物	30
授業への取り組み	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	はじめての特別支援教育-教職を目指す大学生のために 改訂版		
出版社名	有斐閣アルマ	著者名	柘植雅義・渡部匡隆・二宮信一・納富恵子(編)
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			

出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL
特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	障害がある・発達に課題のある子どもとは
2	特別支援教育とは：基本理念や教師に求められる役割や技能
3	障害の理解に基づいた支援とは
4	自閉症スペクトラム障害（ASD）・広汎性発達障害（PDD）1：基本的特性
5	自閉症スペクトラム障害（ASD）・広汎性発達障害（PDD）2：早期サイン
6	注自閉症スペクトラム障害（ASD）・広汎性発達障害（PDD）3：アスペルガー症候群
7	パニック・かんしゃく・感覚過敏など難しい特性の理解と支援
8	注意欠如・多動性障害（ADHD）；多動性・攻撃性の理解と支援
9	中間総括
10	子どもの言語の問題とは：コミュニケーション言語と学習言語
11	（限局性）学習障害（SLD）の理解と指導・支援：音声言語（聞く・話す）や書字言語（読む・書く）の問題
12	知的障害の理解と指導・支援：情報処理理論から見た知的障害児の基本特性と支援法
13	身体障害・聴覚障害・視覚障害の理解と指導・支援
14	保護者とのコミュニケーション：連絡帳の書き方を考える
15	全体総括・授業内定期試験

科目名	特別支援教育理論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	冢門 鉄治				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。
授業概要
[対面授業] 特別支援教育槽の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業では、障害名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかり取って聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
定期試験	60
提出物	30
授業態度	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	「はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために」改訂版		
出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子(編)
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障害とは:「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。通級による指導の必要性について検討を加える。
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。
4	注意欠陥多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 ADHDの三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
5	発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ。自立活動の学校での位置づけと内容について学ぶ。
6	知的障害の理解と指導・支援:知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
7	身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援:教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるか等、支援の方法などについて学ぶ。
8	中間総括:障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整理し、課題に取り組む。
9	学習障害の理解と指導・支援:SLDの定義に含まれる音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題について事例を通じて理解し、配慮にとどまらず子どもの何を伸ばすのか指導・支援法のポイントを学ぶ。
10	いじめと不登校:いじめを受けている児童・生徒への適切な支援、不登校になっている児童・生徒への適切な学習環境の提供とは、対応方法、支援の方法について学ぶ。
11	障害はないが、貧困・育児放棄家庭への支援 貧困による就学困難児童・生徒への支援方法や、育児放棄家庭における保護者への対応方法を考える。
12	障害はないが、日本語が話せない児童・生徒への支援方法 さまざまな理由により日本語を話すことができない児童・生徒が学校に存在する。国際化社会の中で見落としてはならない問題について考える。
13	「個別の指導計画」を作成する。自ら選択した支援の必要なケースを想定し、特別支援が必要な児童・生徒に合わせた指導計画を作成する。
14	保護者、専門機関、地域との連携による支援:支援の効果は保護者との丁寧な情報交換、校内での協力体制の構築、専門家との連携などでさらにアップすること、特別支援教育コーディネータがそれらの中心的な役割を担うことなどを学ぶ。
15	全体総括:特別支援教育の基本、支援が必要な子どものさまざまな特性についての基本的理解、アセスメントや適切な支援とは何かなど科目を通じて学んだ概念・情報を整理し、改めーして復習し課題に取り組む。

科目名	特別支援教育理論	年次		単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	冢門 鉄治				
クラス名	【18以前生対象】				

授業目的と到達目標
特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。
授業概要
[対面授業] 特別支援教育槽の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業では、障害名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかり取って聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
定期試験	60
提出物	30
授業態度	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	「はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために」改訂版		
出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子(編)
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障害とは：「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。通級による指導の必要性について検討を加える。
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。
4	注意欠陥多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 ADHDの三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
5	発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ。自立活動の学校での位置づけと内容について学ぶ。
6	知的障害の理解と指導・支援：知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
7	身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援：教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるか等、支援の方法などについて学ぶ。
8	中間総括：障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整理し、課題に取り組む。
9	学習障害の理解と指導・支援：SLDの定義に含まれる音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題について事例を通じて理解し、配慮にとどまらず子どもの何を伸ばすのか指導・支援法のポイントを学ぶ。
10	いじめと不登校：いじめを受けている児童・生徒への適切な支援、不登校になっている児童・生徒への適切な学習環境の提供とは、対応方法、支援の方法について学ぶ。
11	障害はないが、貧困・育児放棄家庭への支援 貧困による就学困難児童・生徒への支援方法や、育児放棄家庭における保護者への対応方法を考える。
12	障害はないが、日本語が話せない児童・生徒への支援方法 さまざまな理由により日本語を話すことができない児童・生徒が学校に存在する。国際化社会の中で見落としてはならない問題について考える。
13	「個別の指導計画」を作成する。自ら選択した支援の必要なケースを想定し、特別支援が必要な児童・生徒に合わせた指導計画を作成する。
14	保護者、専門機関、地域との連携による支援：支援の効果は保護者との丁寧な情報交換、校内での協力体制の構築、専門家との連携などでさらにアップすること、特別支援教育コーディネータがそれらの中心的な役割を担うことなどを学ぶ。
15	全体総括：特別支援教育の基本、支援が必要な子どものさまざまな特性についての基本的理解、アセスメントや適切な支援とは何かなど科目を通じて学んだ概念・情報を整理し、改めーして復習し課題に取り組む。

科目名	特別支援教育理論	年次	2	単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	冢門 鉄治				
クラス名	【19以降生対象】				

授業目的と到達目標
特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。
授業概要
[対面授業] 特別支援教育槽の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業では、障害名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかりとって聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
定期試験	60
提出物	30
授業態度	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	「はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために」改訂版		
出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子(編)
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障害とは:「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。通級による指導の必要性について検討を加える。
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。
4	注意欠陥多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 ADHDの三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
5	発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ。自立活動の学校での位置づけと内容について学ぶ。
6	知的障害の理解と指導・支援:知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
7	身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援:教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるか等、支援の方法などについて学ぶ。
8	中間総括:障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整理し、課題に取り組む。
9	学習障害の理解と指導・支援:SLDの定義に含まれる音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題について事例を通じて理解し、配慮にとどまらず子どもの何を伸ばすのか指導・支援法のポイントを学ぶ。
10	いじめと不登校:いじめを受けている児童・生徒への適切な支援、不登校になっている児童・生徒への適切な学習環境の提供とは、対応方法、支援の方法について学ぶ。
11	障害はないが、貧困・育児放棄家庭への支援 貧困による就学困難児童・生徒への支援方法や、育児放棄家庭における保護者への対応方法を考える。
12	障害はないが、日本語が話せない児童・生徒への支援方法 さまざまな理由により日本語を話すことができない児童・生徒が学校に存在する。国際化社会の中で見落としてはならない問題について考える。
13	「個別の指導計画」を作成する。自ら選択した支援の必要なケースを想定し、特別支援が必要な児童・生徒に合わせた指導計画を作成する。
14	保護者、専門機関、地域との連携による支援:支援の効果は保護者との丁寧な情報交換、校内での協力体制の構築、専門家との連携などでさらにアップすること、特別支援教育コーディネータがそれらの中心的な役割を担うことなどを学ぶ。
15	全体総括:特別支援教育の基本、支援が必要な子どものさまざまな特性についての基本的理解、アセスメントや適切な支援とは何かなど科目を通じて学んだ概念・情報を整理し、改めーして復習し課題に取り組む。

科目名	特別支援教育理論	年次		単位数	2
授業期間	2021年度 後期	形態	講義		
教員名	冢門 鉄治				
クラス名	【18以前生対象】				

授業目的と到達目標
特別支援が必要とはどういうことか、適切な支援をするために必要な理解とは何かなど、特別支援教育の基本について学び、具体的な事例を通してさまざまな支援についての理解を深め、実際の現場で役に立つ知識を身につけ、障害のある幼児、児童、生徒のみならず、それを必要とする者への適切な支援の方法について考えられるようになることをねらいとする。
授業概要
[対面授業] 特別支援教育槽の特徴や、通常学級で支援のニーズが高い発達障害の特性や、知的障害や身体障害の特性や支援方法、いじめ・不登校・貧困・育児放棄・日本語が話せない児童・生徒対応について事例を挙げながら説明する。それぞれの支援の基礎についても概説する。
準備学修(予習・復習)・受講上の注意
授業では、障害名や病名、教育学、心理学などで使われる専門用語が尾たくさん出てきます。メモをしっかり取って聞いてください。授業中の質問は大歓迎です。

成績評価方法・基準	
種別	割合 (%)
定期試験	60
提出物	30
授業態度	10

教科書			
教科書 1			
出版社名		著者名	
教科書 2			
出版社名		著者名	
教科書 3			
出版社名		著者名	

参考書・参考文献			
参考書名 1	「はじめての特別支援教育—教職を目指す大学生のために」改訂版		
出版社名	有斐閣	著者名	柘植 雅義、渡部匡隆、二宮信一、納富恵子(編)
参考書名 2			
出版社名		著者名	
参考書名 3			
出版社名		著者名	
参考書名 4			
出版社名		著者名	
参考書名 5			
出版社名		著者名	

参考URL

特記事項
教員実務経験

授業計画（各回予定）	
授業回	授業内容
1	特別支援教育の理念。教員に求められる役割や技能について学ぶ。
2	障害とは：「障害があるとはどういうことか」について、ケガや病気との違い、健常児の教育との相違点などを学習する。通級による指導の必要性について検討を加える。
3	自閉症スペクトラム障害(ASD)・広汎性発達障害(PDD)・社会的コミュニケーション障害(SCD)などの基本的対応、インクルーシブ教育システムの構築、合理的配慮、基礎的環境調整について学ぶ。
4	注意欠陥多動性障害(ADHD)の理解と指導・支援 ADHDの三つの特性に基づく行動特徴について理解し、注意・叱責を控えるなどの基本的な心構えを学ぶ。
5	発達障害がある子どもに適切な支援教育を行うためには問題の背景を把握し、多面的な情報収集を行い、それらを総合して支援方針を決定する方法などについて事例を通じて学ぶ。自立活動の学校での位置づけと内容について学ぶ。
6	知的障害の理解と指導・支援：知的障害児の特性に加え、集団の中での適応の難しさや生活上の問題などをダウン候群の事例を通じて学び、適切な学習環境調整、合理的配慮、教育方法について理解する。
7	身体障害・視覚障害・聴覚障害の理解と指導・支援：教育現場で必要とされる知識である各障害の特性について理解し、どのような合理的配慮、基礎的環境調整、具体的対応があるか等、支援の方法などについて学ぶ。
8	中間総括：障害についての基本的知識、特別支援教育の制度や目標、障害の特性や対応について学んだことを整理し、課題に取り組む。
9	学習障害の理解と指導・支援：SLDの定義に含まれる音声言語(聞く・話す)や書字言語(読む・書く)の問題について事例を通じて理解し、配慮にとどまらず子どもの何を伸ばすのか指導・支援法のポイントを学ぶ。
10	いじめと不登校：いじめを受けている児童・生徒への適切な支援、不登校になっている児童・生徒への適切な学習環境の提供とは、対応方法、支援の方法について学ぶ。
11	障害はないが、貧困・育児放棄家庭への支援 貧困による就学困難児童・生徒への支援方法や、育児放棄家庭における保護者への対応方法を考える。
12	障害はないが、日本語が話せない児童・生徒への支援方法 さまざまな理由により日本語を話すことができない児童・生徒が学校に存在する。国際化社会の中で見落としてはならない問題について考える。
13	「個別の指導計画」を作成する。自ら選択した支援の必要なケースを想定し、特別支援が必要な児童・生徒に合わせた指導計画を作成する。
14	保護者、専門機関、地域との連携による支援：支援の効果は保護者との丁寧な情報交換、校内での協力体制の構築、専門家との連携などでさらにアップすること、特別支援教育コーディネータがそれらの中心的な役割を担うことなどを学ぶ。
15	全体総括：特別支援教育の基本、支援が必要な子どものさまざまな特性についての基本的理解、アセスメントや適切な支援とは何かなど科目を通じて学んだ概念・情報を整理し、改めーして復習し課題に取り組む。